通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド
－イーグルアイⅡ－
予想分配金提示型
日本円・コース／豪ドル・コース／ブラジル・レアル・コース／米ドル・コース／通貨セレクト・コース

運用報告書（全体版）

第36期（決算日　2022年８月29日）
第37期（決算日　2022年11月28日）
（作成対象期間　2022年５月31日～2022年11月28日）

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、米国の株式の中から、割安と判断される銘柄を厳選して集中投資することにより信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	2013年８月20日～2023年８月28日
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	イ．ケイマン籍の外国投資信託「ダイワ・プレミアム・トラストーダイワ／ハリス ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（※１）」（以下「ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（※１）」といいます。）の受益証券（円建） ロ．ダイワ・マネーストック・マザーファンドの受益証券 （※１）は、以下の各コースにおいて、次のように読み替えるものとします。 「日本円・コース」の場合……日本円・クラス 「豪ドル・コース」の場合……豪ドル・クラス 「ブラジル・レアル・コース」の場合……ブラジル・レアル・クラス 「米ドル・コース」の場合……米ドル・クラス 「通貨セレクト・コース」の場合……通貨セレクト・クラス
組入制限	投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、分配対象額の範囲内で、下記イ．およびロ．に基づき分配します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。 イ．計算期末の前営業日の基準価額（１万口当り。既払分配金を加算しません。）が10,500円未満の場合、原則として、主要投資対象とする外国投資信託における配当収入等相当分から経費（外国投資信託の経費を含みます。）を控除した額を分配することをめざします。 ロ．計算期末の前営業日の基準価額が10,500円以上の場合、原則として、当該基準価額に応じ、下記の金額（１万口当り）を分配することをめざします。 ａ．10,500円以上11,000円未満の場合…300円 ｂ．11,000円以上11,500円未満の場合…350円 ｃ．11,500円以上12,000円未満の場合…400円 ｄ．12,000円以上12,500円未満の場合…450円 ｅ．12,500円以上の場合……500円 なお、計算期末の前営業日から当該計算期末までに基準価額が急激に変動した場合等には、上記の分配を行なわないことがあります。

大和アセットマネジメント
Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目９番１号
お問い合わせ先（コールセンター）
TEL　０１２０－１０６２１２
（営業日の９：00～17：00）
https://www.daiwa-am.co.jp/

<5770>
<5771>
<5772>
<5773>
<5774>

◇SUZ0577020221128◇

日本円・コース

最近10期の運用実績

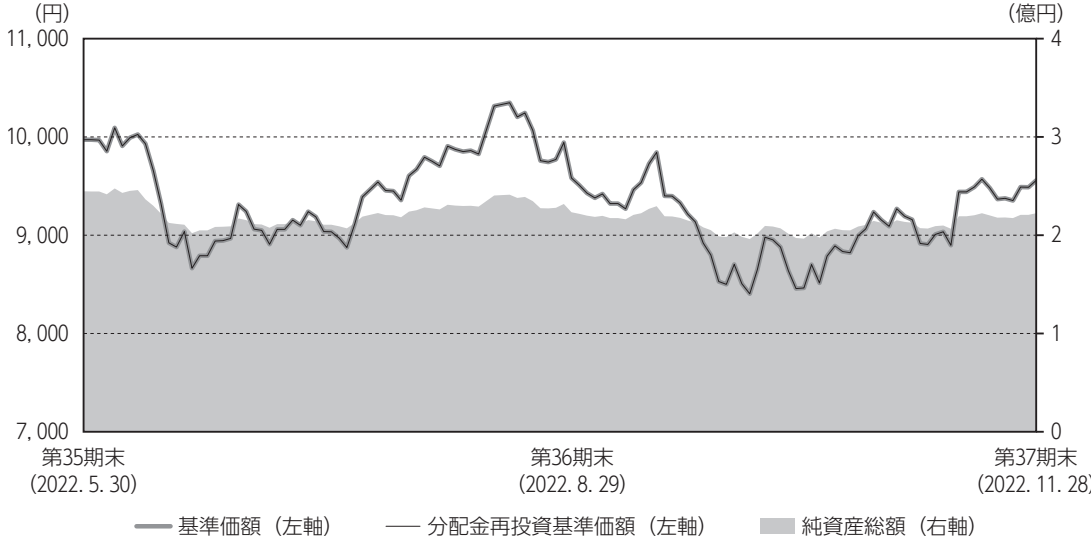
決　算　期	基準価額			S＆P500指数（米ドルベース）		公社債組入比率	投資信託受益証券組入比率	純資産総額
	（分配落）	税込み分配金	期中騰落率	（参考指数）	期中騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
28期末（2020年８月28日）	10,385	300	11.4	21,169	14.8	—	98.9	283
29期末（2020年11月30日）	11,320	400	12.9	22,103	4.4	—	98.0	285
30期末（2021年３月１日）	11,986	500	10.3	23,153	4.7	—	98.8	297
31期末（2021年５月28日）	12,996	500	12.6	25,521	10.2	—	98.8	315
32期末（2021年８月30日）	12,703	500	1.6	27,395	7.3	—	98.8	306
33期末（2021年11月29日）	11,692	450	△ 4.4	27,913	1.9	—	98.4	283
34期末（2022年２月28日）	11,210	350	△ 1.1	26,637	△ 4.6	—	98.1	276
35期末（2022年５月30日）	9,972	0	△ 11.0	25,262	△ 5.2	—	95.8	244
36期末（2022年８月29日）	9,582	0	△ 3.9	24,651	△ 2.4	—	95.5	223
37期末（2022年11月28日）	9,558	0	△ 0.3	24,459	△ 0.8	—	99.1	222

（注１）基準価額の騰落率は分配金込み。
（注２）Ｓ＆Ｐ500指数（米ドルベース）は、同指数の原データをもとに、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。
（注３）海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。
（注４）指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。
（注５）公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。
（注６）公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

Ｓ＆Ｐ500指数はS&P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJI」）の商品であり、これの使用ライセンスが大和アセットマネジメント株式会社に付与されています。Ｓ＆Ｐ®、Ｓ＆Ｐ500®、US 500、The 500、iBoxx®、iTraxx® およびCDX® は、S&P Global, Inc. またはその関連会社（「Ｓ＆Ｐ」）の商標です。Dow Jones® は、Dow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標です。これらの商標の使用ライセンスはSPDJIに付与されており、大和アセットマネジメント株式会社により一定の目的でサブライセンスされています。通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド －イーグルアイⅡ－ 予想分配金提示型　日本円・コースは、SPDJI、Dow Jones、Ｓ＆Ｐ、またはそれらの各関連会社によって後援、推奨、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、Ｓ＆Ｐ500指数のいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。

運用経過

基準価額等の推移について



（注）分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

＊分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
＊分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■基準価額・騰落率

第36期首：9,972円
第37期末：9,558円（既払分配金０円）
騰　落　率：△4.2%（分配金再投資ベース）

■基準価額の主な変動要因

保有株式が軟調に推移したことなどから、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

	年　月　日	基準価額		S＆P500指数(米ドルベース)		公社債組入比率	投資信託受益証券組入比率
			騰落率	(参考指数)	騰落率		
		円	%		%	%	%
第36期	(期首)2022年5月30日	9,972	—	25,262	—	—	95.8
	5月末	9,972	0.0	25,262	0.0	—	95.8
	6月末	9,049	△ 9.3	23,200	△ 8.2	—	98.8
	7月末	9,671	△ 3.0	24,740	△ 2.1	—	99.0
	(期末)2022年8月29日	9,582	△ 3.9	24,651	△ 2.4	—	95.5
第37期	(期首)2022年8月29日	9,582	—	24,651	—	—	95.5
	8月末	9,429	△ 1.6	24,216	△ 1.8	—	98.6
	9月末	8,507	△ 11.2	22,116	△ 10.3	—	98.6
	10月末	9,268	△ 3.3	23,699	△ 3.9	—	99.2
	(期末)2022年11月28日	9,558	△ 0.3	24,459	△ 0.8	—	99.1

（注）期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2022. 5. 31 ～ 2022. 11. 28）

■米国株式市況

米国株式市況は下落しました。

米国株式市況は、当作成期首より、ＣＰＩ（消費者物価指数）が大きく予想を上振れたことなどから利上げ織り込みが加速し、景気後退が懸念されて下落しました。しかし、2022年６月半ばにＦＲＢ（米国連邦準備制度理事会）が利上げ幅拡大を決定した後は、悪材料出尽くし観測やインフレ率のピークアウト期待などから、株価は８月中旬にかけて上昇しました。10月半ばにかけては、ＦＲＢ議長がインフレ抑制姿勢を強調したこと、予想以上のインフレ率の上昇や英国の財政悪化懸念などで欧米の金利が上昇したこと、企業業績の見通しの下方修正が相次いだことなどが嫌気され、下落しました。その後は、英国市場の混乱が収束して欧米の金利上昇が一服したことや米国のインフレ率が予想を下回ったことなどが好感され、当作成期末にかけて株価は反発しました。

■短期金利市況

日銀は、金融緩和政策を継続し、短期金利はマイナス圏で推移しました。

米国では、政策金利の誘導目標レンジが0. 75～1. 00％から3. 75～4. 00％に引き上げられました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

今後も、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（日本円・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資します。また、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（日本円・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

※ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（日本円・クラス）：ダイワ・プレミアム・トラスト－ダイワ／ハリス ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（日本円・クラス）

■ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（日本円・クラス）

ボトムアップによる企業リサーチをもとに、財務内容が強固であり、経営陣が有能で、長期的にキャッシュフロー成長が見込まれる企業の中から、企業の本源的価値と比較して割安に放置されている銘柄に厳選投資していきます。引き続き、一時的な株価調整局面は企業の本源的価値に対して割安な水準で投資する機会と捉え、短期的な損益ではなく、長期投資のリターンを追求していきます。原則として、米ドル建ての資産に対して、米ドル売り／日本円買いの為替ヘッジを行います。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

（2022. 5. 31 ～ 2022. 11. 28）

■当ファンド

当ファンドは、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（日本円・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（日本円・クラス）への投資割合は、信託財産の純資産総額の95％程度以上とすることをめざしました。

■ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（日本円・クラス）

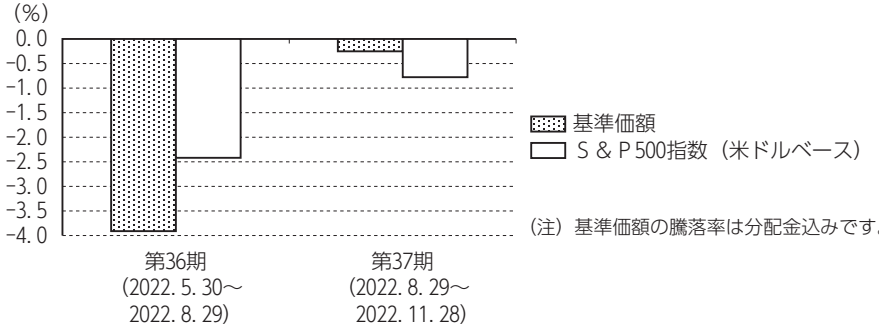
ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（日本円・クラス）の受益証券においては、株式組入比率をおおむね90％以上の高位に維持しました。銘柄選択にあたって、ハリス・アソシエイツ・エル・ピーでは、独自に算出する投資対象企業の本源的価値と比較して著しく割安な銘柄に厳選投資することを基本方針としています。引き続き、財務内容が健全であり、経営陣の質が高く、企業の本源的価値と比較して割安に放置されている企業に厳選投資しました。セクター別では、金融や一般消費財・サービスを高位で組み入れました。銘柄別では、ALPHABET（コミュニケーション・サービス）、WILLIS TOWERS WATSON（金融）、AMAZON. COM（一般消費財・サービス）などを高位で組み入れました。また、米ドル建ての資産に対して、米ドル売り／日本円買いの為替ヘッジを行いました。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。
以下のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期は、分配方針通り、基準価額の水準等を勘案し、収益分配を見送らせていただきました。
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（１万口当り）

項　　目		第36期 2022年５月31日 ～2022年８月29日	第37期 2022年８月30日 ～2022年11月28日
当期分配金（税込み）	**(円)**	**―**	**―**
対基準価額比率	(%)	―	―
当期の収益	(円)	―	―
当期の収益以外	(円)	―	―
翌期繰越分配対象額	(円)	2,084	2,084

（注１）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
（注２）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。
（注３）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

■当ファンド

今後も、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（日本円・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資します。また、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（日本円・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（日本円・クラス）

ボトムアップによる企業リサーチをもとに、財務内容が強固であり、経営陣が有能で、長期的にキャッシュフロー成長が見込まれる企業の中から、企業の本源的価値と比較して割安に放置されている銘柄に厳選投資していきます。引き続き、一時的な株価調整局面は企業の本源的価値に対して割安な水準で投資する機会と捉え、短期的な損益ではなく、長期投資のリターンを追求していきます。原則として、米ドル建ての資産に対して、米ドル売り／日本円買いの為替ヘッジを行います。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

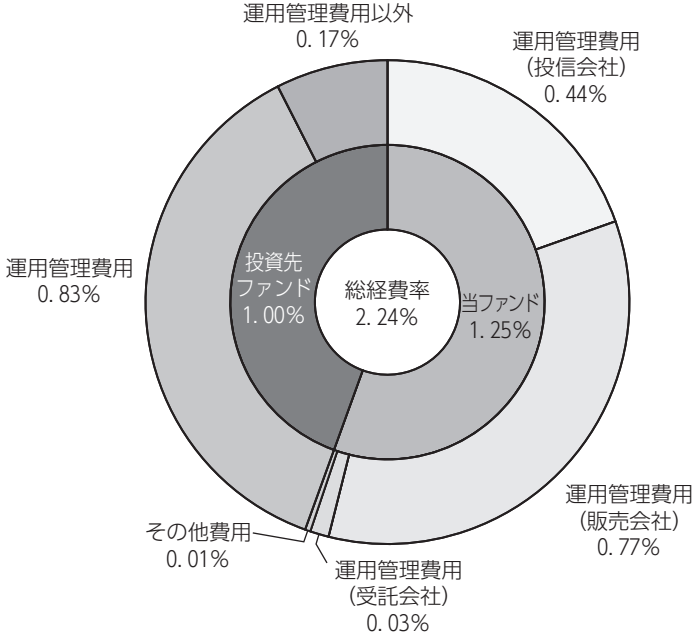
項　　目	第36期～第37期 (2022. 5. 31～2022. 11. 28)		項　目　の　概　要
	金　額	比　率	
信　託　報　酬	57円	0. 617%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 **当作成期中の平均基準価額は9, 308円です。**
(投 信 会 社)	(20)	(0. 219)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(36)	(0. 384)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0. 014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0. 004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合　　計	58	0. 621	

(注１) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。
(注２) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。
(注３) 各比率は１万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第３位未満を四捨五入してあります。
(注４) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「１万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.24%です。



総経費率　（　①　＋　②　＋　③　）	2.24%
①当ファンドの費用の比率	1.25%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.83%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.17%

（注１）投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。
（注２）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
（注３）投資先ファンドにおいて、上記以外に含まれていない費用は認識しておりません。
（注４）各比率は、年率換算した値です。
（注５）①の費用は、１万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
（注６）①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。
（注７）①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
（注８）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況
投資信託受益証券

（2022年５月31日から2022年11月28日まで）

決　算　期	第　36　期　～　第　37　期			
	買　　付		売　　付	
	口　　数	金　　額	口　　数	金　　額
	千口	千円	千口	千円
外国（邦貨建）	73.86758	14,000	101.01075	19,000

（注１）買付は、外国投資信託から支払われた分配金による再投資分を含みます。
（注２）金額は受渡し代金。
（注３）金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄
投資信託受益証券

（2022年５月31日から2022年11月28日まで）

第　36　期　～　第　37　期							
買　付				売　付			
銘　柄	口　数	金　額	平均単価	銘　柄	口　数	金　額	平均単価
	千口	千円	円		千口	千円	円
US CONCENTRATED CAYMAN JPY CLASS（ケイマン諸島）	73.86758	14,000	189	US CONCENTRATED CAYMAN JPY CLASS（ケイマン諸島）	101.01075	19,000	188

（注１）金額は受渡し代金。
（注２）金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表
(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	第　37　期　末		
	口　数	評価額	比　率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 （ケイマン諸島） US CONCENTRATED CAYMAN JPY CLASS	1,180.21226	220,397	99.1

（注１）比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。
（注２）評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種　　類	第35期末	第　37　期　末	
	口　数	口　数	評価額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	300	300	300

（注）単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2022年11月28日現在

項　　目	第　37　期　末	
	評　価　額	比　率
	千円	%
投資信託受益証券	220,397	98.8
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	300	0.1
コール・ローン等、その他	2,351	1.1
投資信託財産総額	223,049	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

（2022年８月29日）、（2022年11月28日）現在

項　　目	第36期末	第37期末
（Ａ）資産	**224, 111, 580円**	**223, 049, 284円**
コール・ローン等	10, 417, 051	2, 351, 333
投資信託受益証券（評価額）	213, 394, 076	220, 397, 558
ダイワ・マネーストック・マザーファンド（評価額）	300, 453	300, 393
（Ｂ）負債	**693, 877**	**663, 060**
未払信託報酬	689, 331	654, 197
その他未払費用	4, 546	8, 863
（Ｃ）純資産総額（Ａ－Ｂ）	**223, 417, 703**	**222, 386, 224**
元本	233, 166, 739	232, 671, 642
次期繰越損益金	△ 9, 749, 036	△ 10, 285, 418
（Ｄ）受益権総口数	**233, 166, 739口**	**232, 671, 642口**
１万口当り基準価額（Ｃ／Ｄ）	**9, 582円**	**9, 558円**

＊当作成期首における元本額は245, 272, 274円、当作成期間（第36期～第37期）中における追加設定元本額は634, 825円、同解約元本額は13, 235, 457円です。
＊第37期末の計算口数当りの純資産額は9, 558円です。
＊第37期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は10, 285, 418円です。

■損益の状況

第36期　自 2022年５月31日　至 2022年８月29日
第37期　自 2022年８月30日　至 2022年11月28日

項　　目	第36期	第37期
（Ａ）配当等収益	△ **139円**	△ **289円**
受取利息	2	1
支払利息	△ 141	△ 290
（Ｂ）有価証券売買損益	△ **8, 409, 682**	**121, 450**
売買益	567, 511	120, 002
売買損	△ 8, 977, 193	1, 448
（Ｃ）信託報酬等	△ **693, 877**	△ **658, 514**
（Ｄ）当期損益金（Ａ＋Ｂ＋Ｃ）	△ **9, 103, 698**	△ **537, 353**
（Ｅ）前期繰越損益金	△ **4, 317, 403**	△ **13, 358, 347**
（Ｆ）追加信託差損益金	**3, 672, 065**	**3, 610, 282**
（配当等相当額）	(8, 193, 080)	(8, 278, 831)
（売買損益相当額）	(△ 4, 521, 015)	(△ 4, 668, 549)
（Ｇ）合計（Ｄ＋Ｅ＋Ｆ）	△ **9, 749, 036**	△ **10, 285, 418**
次期繰越損益金（Ｇ）	△ **9, 749, 036**	△ **10, 285, 418**
追加信託差損益金	3, 672, 065	3, 610, 282
（配当等相当額）	(8, 193, 080)	(8, 278, 831)
（売買損益相当額）	(△ 4, 521, 015)	(△ 4, 668, 549)
分配準備積立金	40, 406, 438	40, 217, 504
繰越損益金	△ 53, 827, 539	△ 54, 113, 204

（注１）信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。
（注２）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。
（注３）収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項　　目	第36期	第37期
（ａ）経費控除後の配当等収益	0円	0円
（ｂ）経費控除後の有価証券売買等損益	0	0
（ｃ）収益調整金	8, 193, 080	8, 278, 831
（ｄ）分配準備積立金	40, 406, 438	40, 217, 504
（ｅ）当期分配対象額（ａ＋ｂ＋ｃ＋ｄ）	48, 599, 518	48, 496, 335
（ｆ）分配金	0	0
（ｇ）翌期繰越分配対象額（ｅ－ｆ）	48, 599, 518	48, 496, 335
（ｈ）受益権総口数	233, 166, 739口	232, 671, 642口

豪ドル・コース

最近10期の運用実績

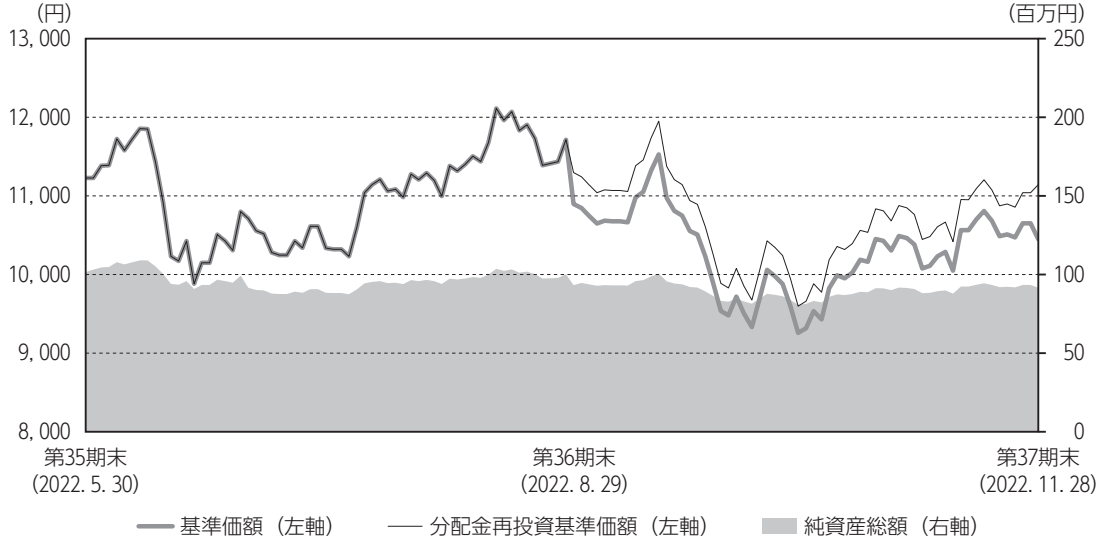
決算期	基準価額			S＆P500指数(米ドルベース)		豪ドル為替レート		公社債組入比率	投資信託受益証券組入比率	純資産総額
	(分配落)	税込み分配金	期中騰落率	(参考指数)	期中騰落率	(参考指数)	期中騰落率			
	円	円	%		%	円	%	%	%	百万円
28期末(2020年8月28日)	10,362	0	20.3	21,169	14.8	77.44	8.2	—	95.8	133
29期末(2020年11月30日)	11,261	400	12.5	22,103	4.4	76.91	△ 0.7	—	98.4	117
30期末(2021年3月1日)	12,793	500	18.0	23,153	4.7	82.49	7.3	—	98.8	125
31期末(2021年5月28日)	14,333	500	15.9	25,521	10.2	85.08	3.1	—	99.0	143
32期末(2021年8月30日)	13,231	500	△ 4.2	27,395	7.3	80.25	△ 5.7	—	98.3	133
33期末(2021年11月29日)	12,218	500	△ 3.9	27,913	1.9	81.19	1.2	—	98.7	112
34期末(2022年2月28日)	12,074	400	2.1	26,637	△ 4.6	82.95	2.2	—	97.6	110
35期末(2022年5月30日)	11,228	350	△ 4.1	25,262	△ 5.2	91.02	9.7	—	97.8	101
36期末(2022年8月29日)	10,898	400	0.6	24,651	△ 2.4	94.93	4.3	—	97.6	93
37期末(2022年11月28日)	10,449	300	△ 1.4	24,459	△ 0.8	93.46	△ 1.5	—	97.1	91

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。
(注2) S＆P500指数（米ドルベース）は、同指数の原データをもとに、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。
(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。
(注4) 為替レートは、計算日における対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートを採用しています。
(注5) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。
(注6) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。
(注7) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

S＆P500指数はS&P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJI」）の商品であり、これの使用ライセンスが大和アセットマネジメント株式会社に付与されています。S＆P®、S＆P500®、US 500、The 500、iBoxx®、iTraxx® およびCDX® は、S&P Global, Inc.またはその関連会社（「S＆P」）の商標です。Dow Jones® は、Dow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標です。これらの商標の使用ライセンスはSPDJIに付与されており、大和アセットマネジメント株式会社により一定の目的でサブライセンスされています。通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド －イーグルアイⅡ－ 予想分配金提示型　豪ドル・コースは、SPDJI、Dow Jones、S＆P、またはそれらの各関連会社によって後援、推奨、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、S＆P500指数のいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。

運用経過

基準価額等の推移について



（注）分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

＊分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
＊分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■基準価額・騰落率

第36期首：11,228円
第37期末：10,449円（既払分配金700円）
騰　落　率：△0.8%（分配金再投資ベース）

■基準価額の主な変動要因

為替が円安豪ドル高に推移したことなどはプラス要因となったものの、保有株式が軟調に推移したことなどから、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

	年　月　日	基準価額		S＆P500指数(米ドルベース)		豪ドル為替レート		公社債組入比率	投資信託受益証券組入比率
			騰落率	(参考指数)	騰落率	(参考指数)	騰落率		
		円	%		%	円	%	%	%
第36期	(期首)2022年5月30日	11,228	—	25,262	—	91.02	—	—	97.8
	5月末	11,228	0.0	25,262	0.0	91.95	1.0	—	96.4
	6月末	10,518	△ 6.3	23,200	△ 8.2	93.90	3.2	—	99.2
	7月末	11,208	△ 0.2	24,740	△ 2.1	94.20	3.5	—	99.3
	(期末)2022年8月29日	11,298	0.6	24,651	△ 2.4	94.93	4.3	—	97.6
第37期	(期首)2022年8月29日	10,898	—	24,651	—	94.93	—	—	97.6
	8月末	10,745	△ 1.4	24,216	△ 1.8	95.14	0.2	—	95.7
	9月末	9,503	△12.8	22,116	△10.3	94.17	△ 0.8	—	98.8
	10月末	10,491	△ 3.7	23,699	△ 3.9	95.05	0.1	—	98.9
	(期末)2022年11月28日	10,749	△ 1.4	24,459	△ 0.8	93.46	△ 1.5	—	97.1

（注）期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2022. 5. 31 ～ 2022. 11. 28）

■米国株式市況

米国株式市況は下落しました。

米国株式市況は、当作成期首より、ＣＰＩ（消費者物価指数）が大きく予想を上振れたことなどから利上げ織り込みが加速し、景気後退が懸念されて下落しました。しかし、2022年６月半ばにＦＲＢ（米国連邦準備制度理事会）が利上げ幅拡大を決定した後は、悪材料出尽くし観測やインフレ率のピークアウト期待などから、株価は８月中旬にかけて上昇しました。10月半ばにかけては、ＦＲＢ議長がインフレ抑制姿勢を強調したこと、予想以上のインフレ率の上昇や英国の財政悪化懸念などで欧米の金利が上昇したこと、企業業績の見通しの下方修正が相次いだことなどが嫌気され、下落しました。その後は、英国市場の混乱が収束して欧米の金利上昇が一服したことや米国のインフレ率が予想を下回ったことなどが好感され、当作成期末にかけて株価は反発しました。

■為替相場

豪ドルは対円で上昇（円安）しました。

当作成期首より、日米金利差に注目が集まり、円は主要通貨に対して下落し、豪ドルは対円で上昇しました。当作成期末にかけては、金利差の拡大や世界経済の先行きへの懸念などから上下する局面もありましたが、豪ドルは対円でおおむね横ばいでの推移となりました。

■短期金利市況

ＲＢＡ（オーストラリア準備銀行）は、政策金利を0. 35％から2. 85％に引き上げました。
米国では、政策金利の誘導目標レンジが0. 75～1. 00％から3. 75～4. 00％に引き上げられました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

今後も、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（豪ドル・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資します。また、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（豪ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

※ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（豪ドル・クラス）：ダイワ・プレミアム・トラスト－ダイワ／ハリス ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（豪ドル・クラス）

■ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（豪ドル・クラス）

ボトムアップによる企業リサーチをもとに、財務内容が強固であり、経営陣が有能で、長期的にキャッシュフロー成長が見込まれる企業の中から、企業の本源的価値と比較して割安に放置されている銘柄に厳選投資していきます。引き続き、一時的な株価調整局面は企業の本源的価値に対して割安な水準で投資する機会と捉え、短期的な損益ではなく、長期投資のリターンを追求していきます。原則として、米ドル建ての資産に対して、米ドル売り／豪ドル買いの為替取引を行います。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

（2022. 5. 31 ～ 2022. 11. 28）

■当ファンド

当ファンドは、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（豪ドル・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（豪ドル・クラス）への投資割合は、信託財産の純資産総額の95％程度以上とすることをめざしました。

■ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（豪ドル・クラス）

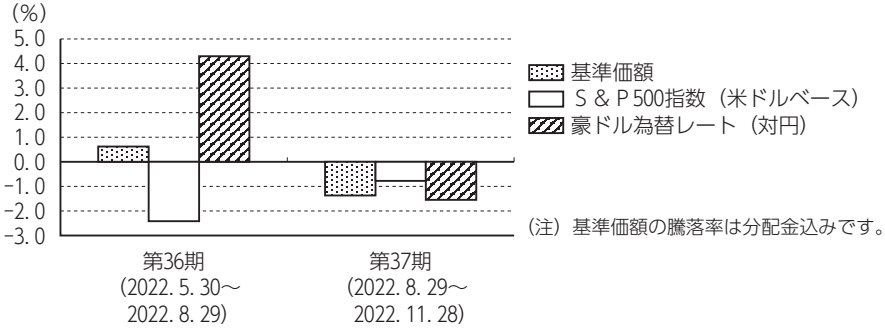
ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（豪ドル・クラス）の受益証券においては、株式組入比率をおおむね90％以上の高位に維持しました。銘柄選択にあたって、ハリス・アソシエイツ・エル・ピーでは、独自に算出する投資対象企業の本源的価値と比較して著しく割安な銘柄に厳選投資することを基本方針としています。引き続き、財務内容が健全であり、経営陣の質が高く、企業の本源的価値と比較して割安に放置されている企業に厳選投資しました。セクター別では、金融や一般消費財・サービスを高位で組み入れました。銘柄別では、ALPHABET（コミュニケーション・サービス）、WILLIS TOWERS WATSON（金融）、AMAZON. COM（一般消費財・サービス）などを高位で組み入れました。また、米ドル建ての資産に対して、米ドル売り／豪ドル買いの為替取引を行いました。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。
以下のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期の１万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（１万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。
収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（１万口当り）」をご参照ください。
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（１万口当り）

項　　目		第36期 2022年５月31日 ～2022年８月29日	第37期 2022年８月30日 ～2022年11月28日
当期分配金（税込み）	**（円）**	**400**	**300**
対基準価額比率	（%）	3.54	2.79
当期の収益	（円）	2	—
当期の収益以外	（円）	397	300
翌期繰越分配対象額	（円）	2,587	2,287

（注１）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
（注２）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。
（注３）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■収益分配金の計算過程（１万口当り）

項　　目	第36期	第37期
（ａ）経費控除後の配当等収益	✓ 2. 49円	0. 00円
（ｂ）経費控除後の有価証券売買等損益	0. 00	0. 00
（ｃ）収益調整金	870. 63	912. 48
（ｄ）分配準備積立金	✓ 2, 114. 26	✓ 1, 674. 90
（ｅ）当期分配対象額（ａ＋ｂ＋ｃ＋ｄ）	2, 987. 39	2, 587. 39
（ｆ）分配金	400. 00	300. 00
（ｇ）翌期繰越分配対象額（ｅ－ｆ）	2, 587. 39	2, 287. 39

（注）✓を付した該当項目から分配金を計上しています。

今後の運用方針

■当ファンド

今後も、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（豪ドル・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資します。また、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（豪ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（豪ドル・クラス）

ボトムアップによる企業リサーチをもとに、財務内容が強固であり、経営陣が有能で、長期的にキャッシュフロー成長が見込まれる企業の中から、企業の本源的価値と比較して割安に放置されている銘柄に厳選投資していきます。引き続き、一時的な株価調整局面は企業の本源的価値に対して割安な水準で投資する機会と捉え、短期的な損益ではなく、長期投資のリターンを追求していきます。原則として、米ドル建ての資産に対して、米ドル売り／豪ドル買いの為替取引を行います。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

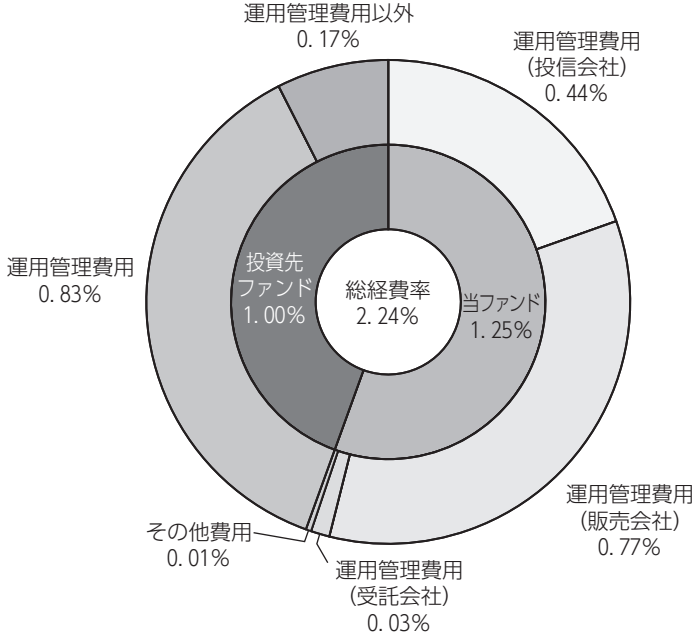
項　　目	第36期～第37期 (2022. 5. 31～2022. 11. 28)		項　目　の　概　要
	金　額	比　率	
信　託　報　酬	66円	0. 617%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 **当作成期中の平均基準価額は10, 658円です。**
(投 信 会 社)	(23)	(0. 219)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(41)	(0. 384)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0. 014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0. 004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合　　計	66	0. 621	

(注１) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。
(注２) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。
(注３) 各比率は１万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第３位未満を四捨五入してあります。
(注４) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「１万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.24%です。



総経費率　（　①　＋　②　＋　③　）	2.24%
①当ファンドの費用の比率	1.25%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.83%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.17%

（注１）投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。
（注２）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
（注３）投資先ファンドにおいて、上記以外に含まれていない費用は認識しておりません。
（注４）各比率は、年率換算した値です。
（注５）①の費用は、１万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
（注６）①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。
（注７）①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
（注８）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況
投資信託受益証券

（2022年５月31日から2022年11月28日まで）

決　算　期	第　36　期　～　第　37　期			
	買　　付		売　　付	
	口　　数	金　　額	口　　数	金　　額
	千口	千円	千口	千円
外国（邦貨建）	28.29597	5,032	85.64669	15,000

（注１）買付は、外国投資信託から支払われた分配金による再投資分を含みます。
（注２）金額は受渡し代金。
（注３）金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄
投資信託受益証券

（2022年５月31日から2022年11月28日まで）

第　36　期　～　第　37　期							
買　　付				売　　付			
銘　　柄	口　数	金　額	平均単価	銘　　柄	口　数	金　額	平均単価
	千口	千円	円		千口	千円	円
US CONCENTRATED CAYMAN AUD CLASS（ケイマン諸島）	28.12754	5,000	177	US CONCENTRATED CAYMAN AUD CLASS（ケイマン諸島）	85.64669	15,000	175

（注１）金額は受渡し代金。
（注２）金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表
(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	第　37　期　末		
	口　数	評価額	比　率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 （ケイマン諸島） US CONCENTRATED CAYMAN AUD CLASS	500.68355	88,982	97.1

（注１）比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。
（注２）評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種　　類	第35期末	第　37　期　末	
	口　数	口　数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	200	200	200

（注）単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2022年11月28日現在

項　　目	第　37　期　末	
	評　価　額	比　　率
	千円	%
投資信託受益証券	88,982	94.1
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	200	0.2
コール・ローン等、その他	5,339	5.7
投資信託財産総額	94,522	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

（2022年８月29日）、（2022年11月28日）現在

項　　目	第36期末	第37期末
（Ａ）資産	**96, 943, 570円**	**94, 522, 969円**
コール・ローン等	5, 750, 388	5, 339, 046
投資信託受益証券（評価額）	90, 992, 201	88, 982, 982
ダイワ・マネーストック・マザーファンド（評価額）	200, 981	200, 941
（Ｂ）負債	**3, 721, 163**	**2, 911, 595**
未払収益分配金	3, 421, 644	2, 630, 344
未払信託報酬	297, 583	277, 511
その他未払費用	1, 936	3, 740
（Ｃ）純資産総額（Ａ－Ｂ）	**93, 222, 407**	**91, 611, 374**
元本	85, 541, 114	87, 678, 151
次期繰越損益金	7, 681, 293	3, 933, 223
（Ｄ）受益権総口数	**85, 541, 114口**	**87, 678, 151口**
１万口当り基準価額（Ｃ／Ｄ）	**10, 898円**	**10, 449円**

＊当作成期首における元本額は90, 462, 368円、当作成期間（第36期～第37期）中における追加設定元本額は3, 746, 824円、同解約元本額は6, 531, 041円です。
＊第37期末の計算口数当りの純資産額は10, 449円です。

■損益の状況

第36期　自 2022年５月31日　至 2022年８月29日
第37期　自 2022年８月30日　至 2022年11月28日

項　　目	第36期	第37期
（Ａ）配当等収益	**31, 999円**	△ **107円**
受取配当金	32, 046	—
受取利息	3	—
支払利息	△ 50	△ 107
（Ｂ）有価証券売買損益	**864, 150**	△ **1, 009, 256**
売買益	1, 078, 662	3
売買損	△ 214, 512	△ 1, 009, 259
（Ｃ）信託報酬等	△ **299, 519**	△ **279, 315**
（Ｄ）当期損益金（Ａ＋Ｂ＋Ｃ）	**596, 630**	△ **1, 288, 678**
（Ｅ）前期繰越損益金	**7, 028, 141**	**4, 203, 112**
（Ｆ）追加信託差損益金	**3, 478, 166**	**3, 649, 133**
（配当等相当額）	(7, 447, 548)	(8, 000, 531)
（売買損益相当額）	(△ 3, 969, 382)	(△ 4, 351, 398)
（Ｇ）合計（Ｄ＋Ｅ＋Ｆ）	**11, 102, 937**	**6, 563, 567**
（Ｈ）収益分配金	△ **3, 421, 644**	△ **2, 630, 344**
次期繰越損益金（Ｇ＋Ｈ）	**7, 681, 293**	**3, 933, 223**
追加信託差損益金	3, 478, 166	3, 649, 133
（配当等相当額）	(7, 447, 548)	(8, 000, 531)
（売買損益相当額）	(△ 3, 969, 382)	(△ 4, 351, 398)
分配準備積立金	14, 685, 303	12, 054, 907
繰越損益金	△ 10, 482, 176	△ 11, 770, 817

（注１）信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。
（注２）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。
（注３）収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項　　目	第36期	第37期
（ａ）経費控除後の配当等収益	21, 302円	0円
（ｂ）経費控除後の有価証券売買等損益	0	0
（ｃ）収益調整金	7, 447, 548	8, 000, 531
（ｄ）分配準備積立金	18, 085, 645	14, 685, 251
（ｅ）当期分配対象額（ａ＋ｂ＋ｃ＋ｄ）	25, 554, 495	22, 685, 782
（ｆ）分配金	3, 421, 644	2, 630, 344
（ｇ）翌期繰越分配対象額（ｅ－ｆ）	22, 132, 851	20, 055, 438
（ｈ）受益権総口数	85, 541, 114口	87, 678, 151口

収　益　分　配　金　の　お　知　ら　せ		
1万口当り分配金（税込み）	第36期	第37期
	400円	300円

●〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

ブラジル・レアル・コース

最近10期の運用実績

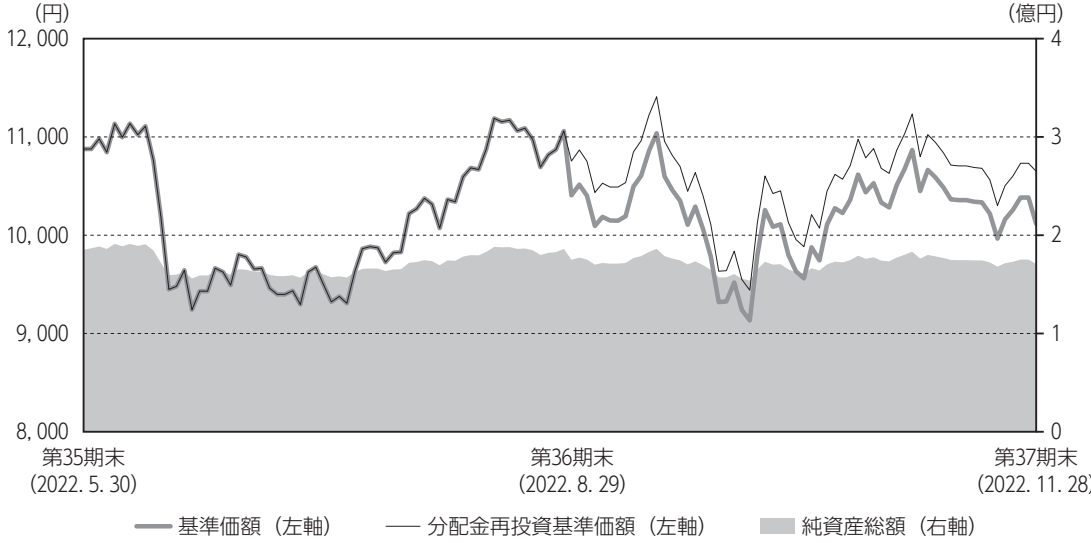
決算期	基準価額			S＆P500指数（米ドルベース）		ブラジル・レアル為替レート		公社債組入比率	投資信託受益証券組入比率	純資産総額
	（分配落）	税込み分配金	期中騰落率	（参考指数）	期中騰落率	（参考指数）	期中騰落率			
	円	円	%		%	円	%	%	%	百万円
28期末（2020年8月28日）	6,554	10	4.6	21,169	14.8	19.15	△ 6.4	—	98.9	165
29期末（2020年11月30日）	7,542	0	15.1	22,103	4.4	19.46	1.6	—	98.9	184
30期末（2021年3月1日）	8,158	0	8.2	23,153	4.7	19.01	△ 2.3	—	98.9	188
31期末（2021年5月28日）	10,010	30	23.1	25,521	10.2	20.9861	10.4	—	97.4	220
32期末（2021年8月30日）	10,293	70	3.5	27,395	7.3	21.0814	0.5	—	96.6	206
33期末（2021年11月29日）	9,428	130	△ 7.1	27,913	1.9	20.3020	△ 3.7	—	97.1	129
34期末（2022年2月28日）	10,355	220	12.2	26,637	△ 4.6	22.4213	10.4	—	97.5	195
35期末（2022年5月30日）	10,878	300	7.9	25,262	△ 5.2	26.8460	19.7	—	97.9	185
36期末（2022年8月29日）	10,405	350	△ 1.1	24,651	△ 2.4	27.3104	1.7	—	98.1	175
37期末（2022年11月28日）	10,114	190	△ 1.0	24,459	△ 0.8	25.7572	△ 5.7	—	97.0	170

（注1）基準価額の騰落率は分配金込み。
（注2）S＆P500指数（米ドルベース）は、同指数の原データをもとに、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。
（注3）海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。
（注4）為替レートは、計算日における対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートを採用しています。
（注5）指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。
（注6）公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。
（注7）公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

S＆P500指数はS&P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJI」）の商品であり、これの使用ライセンスが大和アセットマネジメント株式会社に付与されています。S＆P®、S＆P500®、US 500、The 500、iBoxx®、iTraxx®およびCDX®は、S&P Global, Inc.またはその関連会社（「S＆P」）の商標です。Dow Jones®は、Dow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標です。これらの商標の使用ライセンスはSPDJIに付与されており、大和アセットマネジメント株式会社により一定の目的でサブライセンスされています。通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド －イーグルアイⅡ－ 予想分配金提示型　ブラジル・レアル・コースは、SPDJI、Dow Jones、S＆P、またはそれらの各関連会社によって後援、推奨、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、S＆P500指数のいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。

運用経過

基準価額等の推移について



（注）分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

＊分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
＊分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■基準価額・騰落率

第36期首：10,878円
第37期末：10,114円（既払分配金540円）
騰　落　率：△2.1%（分配金再投資ベース）

■基準価額の主な変動要因

保有株式が軟調に推移し、ブラジル・レアルが対円で下落（円高）したことなどから、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

	年　月　日	基準価額		S＆P500指数(米ドルベース)		ブラジル・レアル為替レート		公社債組入比率	投資信託受益証券組入比率
			騰落率	(参考指数)	騰落率	(参考指数)	騰落率		
		円	%		%	円	%	%	%
第36期	(期首)2022年5月30日	10,878	—	25,262	—	26.8460	—	—	97.9
	5月末	10,878	0.0	25,262	0.0	26.9677	0.5	—	97.1
	6月末	9,663	△11.2	23,200	△ 8.2	26.3594	△ 1.8	—	98.8
	7月末	10,269	△ 5.6	24,740	△ 2.1	25.9481	△ 3.3	—	99.2
	(期末)2022年8月29日	10,755	△ 1.1	24,651	△ 2.4	27.3104	1.7	—	98.1
第37期	(期首)2022年8月29日	10,405	—	24,651	—	27.3104	—	—	98.1
	8月末	10,402	△ 0.0	24,216	△ 1.8	27.0548	△ 0.9	—	97.9
	9月末	9,239	△11.2	22,116	△10.3	26.7937	△ 1.9	—	98.4
	10月末	10,511	1.0	23,699	△ 3.9	27.9537	2.4	—	99.2
	(期末)2022年11月28日	10,304	△ 1.0	24,459	△ 0.8	25.7572	△ 5.7	—	97.0

（注）期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2022. 5. 31 ～ 2022. 11. 28）

■米国株式市況

米国株式市況は下落しました。

米国株式市況は、当作成期首より、ＣＰＩ（消費者物価指数）が大きく予想を上振れたことなどから利上げ織り込みが加速し、景気後退が懸念されて下落しました。しかし、2022年６月半ばにＦＲＢ（米国連邦準備制度理事会）が利上げ幅拡大を決定した後は、悪材料出尽くし観測やインフレ率のピークアウト期待などから、株価は８月中旬にかけて上昇しました。10月半ばにかけては、ＦＲＢ議長がインフレ抑制姿勢を強調したこと、予想以上のインフレ率の上昇や英国の財政悪化懸念などで欧米の金利が上昇したこと、企業業績の見通しの下方修正が相次いだことなどが嫌気され、下落しました。その後は、英国市場の混乱が収束して欧米の金利上昇が一服したことや米国のインフレ率が予想を下回ったことなどが好感され、当作成期末にかけて株価は反発しました。

■為替相場

ブラジル・レアルは対円で下落しました。

ブラジル・レアル対円為替相場は、当作成期首より2022年７月中旬にかけて、米国株式等が下落し投資家のリスク回避姿勢が強まる中、下落しました。７月下旬から10月にかけては、ブラジル株への資金流入などがブラジル・レアル高につながりました。日銀による緩和的な金融政策の継続により円安が進行したことも、下支え要因となりました。11月に入ると、市場でブラジルの財政悪化懸念が強まったことから、下落しました。

■短期金利市況

ブラジル中央銀行は2022年６月および８月に利上げを実施し、政策金利を13. 75％としました。
米国では、政策金利の誘導目標レンジが0. 75～1. 00％から3. 75～4. 00％に引き上げられました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

今後も、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（ブラジル・レアル・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資します。また、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（ブラジル・レアル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

※ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（ブラジル・レアル・クラス）：ダイワ・プレミアム・トラスト－ ダイワ／ハリス ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（ブラジル・レアル・クラス）

■ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（ブラジル・レアル・クラス）

ボトムアップによる企業リサーチをもとに、財務内容が強固であり、経営陣が有能で、長期的にキャッシュフロー成長が見込まれる企業の中から、企業の本源的価値と比較して割安に放置されている銘柄に厳選投資していきます。引き続き、一時的な株価調整局面は企業の本源的価値に対して割安な水準で投資する機会と捉え、短期的な損益ではなく、長期投資のリターンを追求していきます。原則として、米ドル建ての資産に対して、米ドル売り／ブラジル・レアル買いの為替取引を行います。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

（2022. 5. 31 ～ 2022. 11. 28）

■当ファンド

当ファンドは、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（ブラジル・レアル・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（ブラジル・レアル・クラス）への投資割合は、信託財産の純資産総額の95％程度以上とすることをめざしました。

■ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（ブラジル・レアル・クラス）

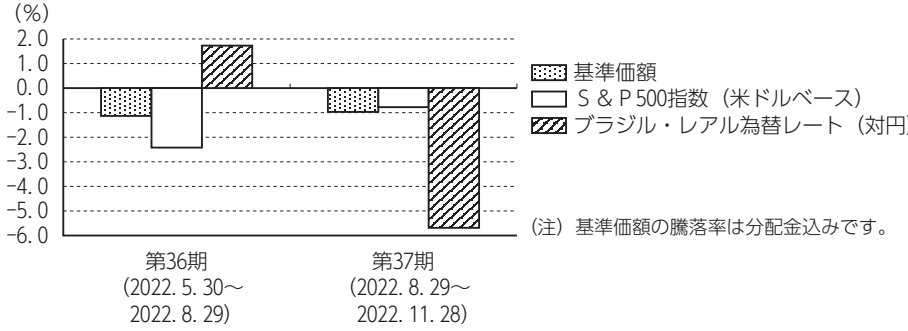
ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（ブラジル・レアル・クラス）の受益証券においては、株式組入比率をおおむね90％以上の高位に維持しました。銘柄選択にあたって、ハリス・アソシエイツ・エル・ピーでは、独自に算出する投資対象企業の本源的価値と比較して著しく割安な銘柄に厳選投資することを基本方針としています。引き続き、財務内容が健全であり、経営陣の質が高く、企業の本源的価値と比較して割安に放置されている企業に厳選投資しました。セクター別では、金融や一般消費財・サービスを高位で組み入れました。銘柄別では、ALPHABET（コミュニケーション・サービス）、WILLIS TOWERS WATSON（金融）、AMAZON. COM（一般消費財・サービス）などを高位で組み入れました。また、米ドル建ての資産に対して、米ドル売り／ブラジル・レアル買いの為替取引を行いました。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。
以下のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期の１万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（１万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。
収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（１万口当り）」をご参照ください。
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（１万口当り）

項　　目		第36期 2022年５月31日 ～2022年８月29日	第37期 2022年８月30日 ～2022年11月28日
当期分配金（税込み）	**(円)**	**350**	**190**
対基準価額比率	(%)	3. 25	1. 84
当期の収益	(円)	245	190
当期の収益以外	(円)	104	—
翌期繰越分配対象額	(円)	3, 107	3, 135

（注１）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
（注２）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。
（注３）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■収益分配金の計算過程（１万口当り）

項　　目	第36期	第37期
（ａ）経費控除後の配当等収益	✓ 245.53円	✓ 217.64円
（ｂ）経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00
（ｃ）収益調整金	2,441.59	2,443.79
（ｄ）分配準備積立金	✓ 770.30	663.77
（ｅ）当期分配対象額（ａ＋ｂ＋ｃ＋ｄ）	3,457.42	3,325.21
（ｆ）分配金	350.00	190.00
（ｇ）翌期繰越分配対象額（ｅ－ｆ）	3,107.42	3,135.21

（注）✓を付した該当項目から分配金を計上しています。

今後の運用方針

■当ファンド

今後も、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（ブラジル・レアル・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資します。また、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（ブラジル・レアル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（ブラジル・レアル・クラス）

ボトムアップによる企業リサーチをもとに、財務内容が強固であり、経営陣が有能で、長期的にキャッシュフロー成長が見込まれる企業の中から、企業の本源的価値と比較して割安に放置されている銘柄に厳選投資していきます。引き続き、一時的な株価調整局面は企業の本源的価値に対して割安な水準で投資する機会と捉え、短期的な損益ではなく、長期投資のリターンを追求していきます。原則として、米ドル建ての資産に対して、米ドル売り／ブラジル・レアル買いの為替取引を行います。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

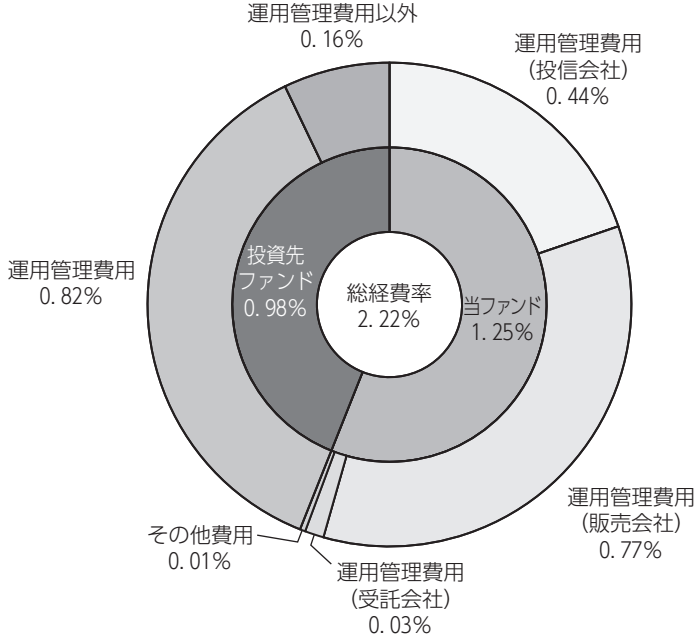
項　目	第36期～第37期 (2022. 5. 31～2022. 11. 28)		項　目　の　概　要
	金　額	比　率	
信託報酬	63円	0. 617%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 **当作成期中の平均基準価額は10, 191円です。**
(投信会社)	(22)	(0. 219)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販売会社)	(39)	(0. 384)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(1)	(0. 014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	0	0. 004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合　計	63	0. 621	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。
(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。
(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.22%です。



総経費率　（　①　＋　②　＋　③　）	2.22%
①当ファンドの費用の比率	1.25%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.82%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.16%

（注１）投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。
（注２）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
（注３）投資先ファンドにおいて、上記以外に含まれていない費用は認識しておりません。
（注４）各比率は、年率換算した値です。
（注５）①の費用は、１万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
（注６）①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。
（注７）①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
（注８）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況
投資信託受益証券

（2022年５月31日から2022年11月28日まで）

決　算　期	第　36　期　～　第　37　期			
	買　　付		売　　付	
	口　　数	金　　額	口　　数	金　　額
	千口	千円	千口	千円
外国（邦貨建）	138.51673	13,872	182.59415	18,000

（注１）買付は、外国投資信託から支払われた分配金による再投資分を含みます。
（注２）金額は受渡し代金。
（注３）金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄
投資信託受益証券

（2022年５月31日から2022年11月28日まで）

第　36　期　～　第　37　期							
買　　付				売　　付			
銘　　柄	口　数	金　額	平均単価	銘　　柄	口　数	金　額	平均単価
	千口	千円	円		千口	千円	円
US CONCENTRATED CAYMAN BRL CLASS（ケイマン諸島）	49.48571	5,000	101	US CONCENTRATED CAYMAN BRL CLASS（ケイマン諸島）	182.59415	18,000	98

（注１）金額は受渡し代金。
（注２）金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表
(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	第　37　期　末		
	口　数	評価額	比　率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 （ケイマン諸島） US CONCENTRATED CAYMAN BRL CLASS	1,723.53338	165,564	97.0

（注１）比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。
（注２）評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種　　類	第35期末	第　37　期　末	
	口　数	口　数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	300	300	300

（注）単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2022年11月28日現在

項　　目	第　37　期　末	
	評　価　額	比　　率
	千円	%
投資信託受益証券	165,564	95.0
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	300	0.2
コール・ローン等、その他	8,503	4.8
投資信託財産総額	174,367	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

（2022年８月29日）、（2022年11月28日）現在

項　　目	第36期末	第37期末
（A）資産	**181, 460, 083円**	**174, 367, 948円**
コール・ローン等	9, 438, 343	8, 503, 215
投資信託受益証券（評価額）	171, 721, 287	165, 564, 340
ダイワ・マネーストック・マザーファンド（評価額）	300, 453	300, 393
（B）負債	**6, 422, 295**	**3, 743, 124**
未払収益分配金	5, 888, 115	3, 205, 303
未払信託報酬	530, 682	530, 829
その他未払費用	3, 498	6, 992
（C）純資産総額（A－B）	**175, 037, 788**	**170, 624, 824**
元本	168, 231, 884	168, 700, 189
次期繰越損益金	6, 805, 904	1, 924, 635
（D）受益権総口数	**168, 231, 884口**	**168, 700, 189口**
1万口当り基準価額（C／D）	**10, 405円**	**10, 114円**

＊当作成期首における元本額は170, 222, 995円、当作成期間（第36期～第37期）中における追加設定元本額は1, 991, 551円、同解約元本額は3, 514, 357円です。
＊第37期末の計算口数当りの純資産額は10, 114円です。

■損益の状況

第36期　自 2022年５月31日　至 2022年８月29日
第37期　自 2022年８月30日　至 2022年11月28日

項　　目	第36期	第37期
（A）配当等収益	**4, 664, 861円**	**4, 206, 027円**
受取配当金	4, 664, 929	4, 206, 234
支払利息	△ 68	△ 207
（B）有価証券売買損益	**△ 6, 211, 874**	**△ 5, 362, 903**
売買益	89, 638	1, 554
売買損	△ 6, 301, 512	△ 5, 364, 457
（C）信託報酬等	**△ 534, 180**	**△ 534, 323**
（D）当期損益金（A＋B＋C）	**△ 2, 081, 193**	**△ 1, 691, 199**
（E）前期繰越損益金	**12, 071, 253**	**4, 100, 607**
（F）追加信託差損益金	**2, 703, 959**	**2, 720, 530**
（配当等相当額）	(41, 075, 388)	(41, 226, 871)
（売買損益相当額）	(△ 38, 371, 429)	(△ 38, 506, 341)
（G）合計（D＋E＋F）	**12, 694, 019**	**5, 129, 938**
（H）収益分配金	**△ 5, 888, 115**	**△ 3, 205, 303**
次期繰越損益金（G＋H）	**6, 805, 904**	**1, 924, 635**
追加信託差損益金	2, 703, 959	2, 720, 530
（配当等相当額）	(41, 075, 388)	(41, 226, 871)
（売買損益相当額）	(△ 38, 371, 429)	(△ 38, 506, 341)
分配準備積立金	11, 201, 490	11, 664, 207
繰越損益金	△ 7, 099, 545	△ 12, 460, 102

（注１）信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。
（注２）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。
（注３）収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項　　目	第36期	第37期
（a）経費控除後の配当等収益	4, 130, 675円	3, 671, 675円
（b）経費控除後の有価証券売買等損益	0	0
（c）収益調整金	41, 075, 388	41, 226, 871
（d）分配準備積立金	12, 958, 930	11, 197, 835
（e）当期分配対象額（a＋b＋c＋d）	58, 164, 993	56, 096, 381
（f）分配金	5, 888, 115	3, 205, 303
（g）翌期繰越分配対象額（e－f）	52, 276, 878	52, 891, 078
（h）受益権総口数	168, 231, 884口	168, 700, 189口

収益分配金のお知らせ		
1万口当り分配金（税込み）	第36期	第37期
	350円	190円

●〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

米ドル・コース

最近10期の運用実績

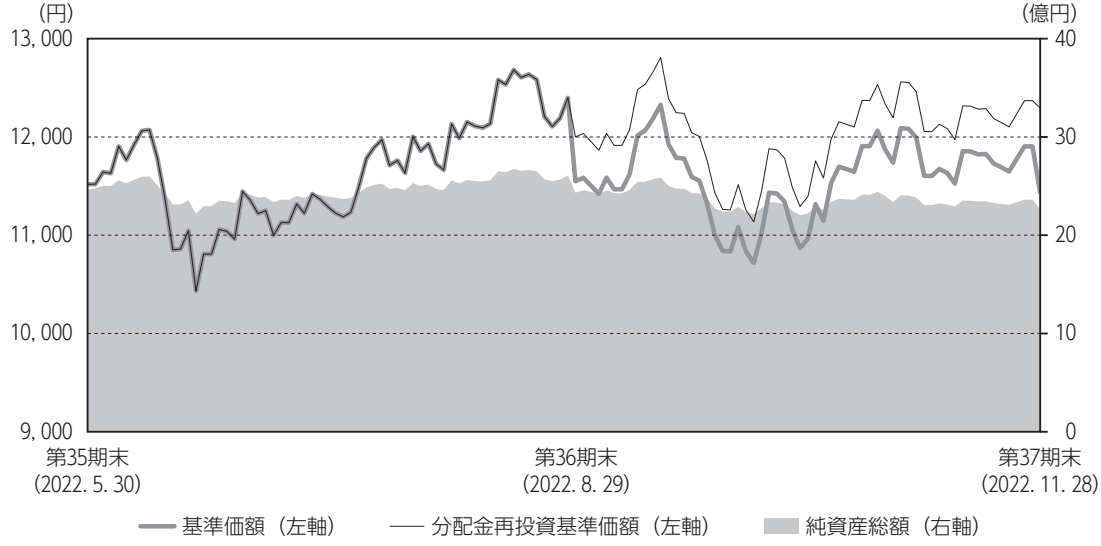
決算期	基準価額			S＆P500指数（円換算）		公社債組入比率	投資信託受益証券組入比率	純資産総額
	（分配落）	税込み分配金	期中騰落率	（参考指数）	期中騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
28期末（2020年８月28日）	10,306	300	10.3	23,108	13.4	—	99.0	2,665
29期末（2020年11月30日）	11,064	350	10.8	23,501	1.7	—	98.3	2,868
30期末（2021年３月１日）	12,023	500	13.2	25,234	7.4	—	99.1	2,941
31期末（2021年５月28日）	13,462	500	16.1	28,723	13.8	—	99.0	3,110
32期末（2021年８月30日）	13,222	500	1.9	30,768	7.1	—	99.0	2,962
33期末（2021年11月29日）	12,510	500	△ 1.6	32,501	5.6	—	99.0	2,765
34期末（2022年２月28日）	12,186	450	1.0	31,501	△ 3.1	—	98.6	2,620
35期末（2022年５月30日）	11,519	400	△ 2.2	32,840	4.3	—	98.2	2,460
36期末（2022年８月29日）	11,550	450	4.2	34,901	6.3	—	98.6	2,431
37期末（2022年11月28日）	11,433	400	2.5	34,820	△ 0.2	—	98.2	2,266

（注１）基準価額の騰落率は分配金込み。
（注２）Ｓ＆Ｐ500指数（円換算）は、Ｓ＆Ｐ500指数（米ドルベース）をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。
（注３）海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。
（注４）指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。
（注５）公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。
（注６）公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

Ｓ＆Ｐ500指数はS&P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJI」）の商品であり、これの使用ライセンスが大和アセットマネジメント株式会社に付与されています。Ｓ＆Ｐ®、Ｓ＆Ｐ500®、US 500、The 500、iBoxx®、iTraxx® およびCDX® は、S&P Global, Inc. またはその関連会社（「Ｓ＆Ｐ」）の商標です。Dow Jones® は、Dow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標です。これらの商標の使用ライセンスはSPDJIに付与されており、大和アセットマネジメント株式会社により一定の目的でサブライセンスされています。通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド －イーグルアイⅡ－ 予想分配金提示型　米ドル・コースは、SPDJI、Dow Jones、Ｓ＆Ｐ、またはそれらの各関連会社によって後援、推奨、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、Ｓ＆Ｐ500指数のいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。

運用経過

基準価額等の推移について



（注）分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

＊分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
＊分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■基準価額・騰落率

第36期首：11,519円
第37期末：11,433円（既払分配金850円）
騰　落　率：6.7%（分配金再投資ベース）

■基準価額の主な変動要因

保有株式は軟調に推移したものの、米ドル為替が対円で上昇（円安）したことなどから、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

	年　月　日	基準価額		S＆P500指数(円換算)		公社債組入比率	投資信託受益証券組入比率
			騰落率	(参考指数)	騰落率		
		円	%		%	%	%
第36期	(期首)2022年5月30日	11,519	—	32,840	—	—	98.2
	5月末	11,518	△ 0.0	33,147	0.9	—	97.5
	6月末	11,251	△ 2.3	32,453	△ 1.2	—	99.3
	7月末	11,856	2.9	34,084	3.8	—	99.0
	(期末)2022年8月29日	12,000	4.2	34,901	6.3	—	98.6
第37期	(期首)2022年8月29日	11,550	—	34,901	—	—	98.6
	8月末	11,504	△ 0.4	34,358	△ 1.6	—	97.8
	9月末	10,836	△ 6.2	32,777	△ 6.1	—	98.9
	10月末	12,089	4.7	35,960	3.0	—	99.0
	(期末)2022年11月28日	11,833	2.5	34,820	△ 0.2	—	98.2

（注）期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2022. 5. 31 ～ 2022. 11. 28）

■米国株式市況

米国株式市況は下落しました。

米国株式市況は、当作成期首より、ＣＰＩ（消費者物価指数）が大きく予想を上振れたことなどから利上げ織り込みが加速し、景気後退が懸念されて下落しました。しかし、2022年６月半ばにＦＲＢ（米国連邦準備制度理事会）が利上げ幅拡大を決定した後は、悪材料出尽くし観測やインフレ率のピークアウト期待などから、株価は８月中旬にかけて上昇しました。10月半ばにかけては、ＦＲＢ議長がインフレ抑制姿勢を強調したこと、予想以上のインフレ率の上昇や英国の財政悪化懸念などで欧米の金利が上昇したこと、企業業績の見通しの下方修正が相次いだことなどが嫌気され、下落しました。その後は、英国市場の混乱が収束して欧米の金利上昇が一服したことや米国のインフレ率が予想を下回ったことなどが好感され、当作成期末にかけて株価は反発しました。

■為替相場

米ドル為替相場は、対円で上昇しました。

米ドル対円為替相場は、2022年６月に米国で大幅な利上げが行われたことなどから、上昇しました。７月後半には、米国金利が低下に転じると日米金利差の縮小が意識され、円が買い戻されたことで円高米ドル安となりました。８月は、米国金利の上昇により日米金利差が再度拡大したことなどから、円安米ドル高が進行しました。その後は、ＦＲＢ（米国連邦準備制度理事会）が大幅な金融引き締めを決定したのに対し、日銀は金融緩和政策の維持を決定したことで急速に円安米ドル高が進行しました。これを受け、日本政府・日銀は円買い介入を実施したものの影響は限定的なものにとどまりました。当作成期末にかけては、米国のインフレ減速期待などから日米金利差の縮小が意識され、円高米ドル安が進みました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

今後も、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（米ドル・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資します。また、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（米ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

※ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（米ドル・クラス）：ダイワ・プレミアム・トラスト－ダイワ／ハリス ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（米ドル・クラス）

■ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（米ドル・クラス）

ボトムアップによる企業リサーチをもとに、財務内容が強固であり、経営陣が有能で、長期的にキャッシュフロー成長が見込まれる企業の中から、企業の本源的価値と比較して割安に放置されている銘柄に厳選投資していきます。引き続き、一時的な株価調整局面は企業の本源的価値に対して割安な水準で投資する機会と捉え、短期的な損益ではなく、長期投資のリターンを追求していきます。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

（2022. 5. 31 ～ 2022. 11. 28）

■当ファンド

当ファンドは、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（米ドル・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（米ドル・クラス）への投資割合は、信託財産の純資産総額の95％程度以上とすることをめざしました。

■ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（米ドル・クラス）

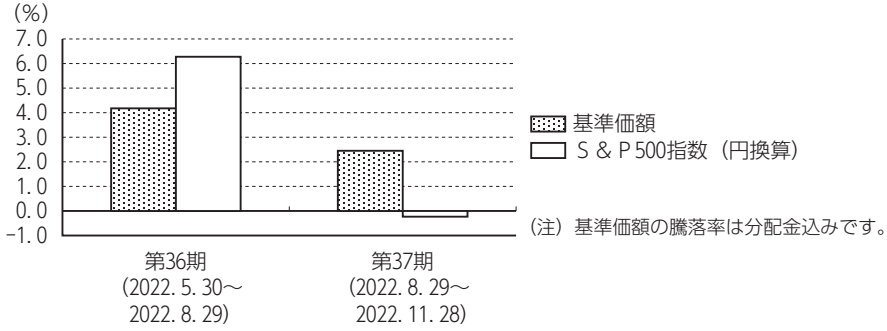
ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（米ドル・クラス）の受益証券においては、株式組入比率をおおむね90％以上の高位に維持しました。銘柄選択にあたって、ハリス・アソシエイツ・エル・ピーでは、独自に算出する投資対象企業の本源的価値と比較して著しく割安な銘柄に厳選投資することを基本方針としています。引き続き、財務内容が健全であり、経営陣の質が高く、企業の本源的価値と比較して割安に放置されている企業に厳選投資しました。セクター別では、金融や一般消費財・サービスを高位で組み入れました。銘柄別では、ALPHABET（コミュニケーション・サービス）、WILLIS TOWERS WATSON（金融）、AMAZON. COM（一般消費財・サービス）などを高位で組み入れました。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。
以下のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期の１万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（１万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。
収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（１万口当り）」をご参照ください。
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（１万口当り）

項　　目		第36期 2022年５月31日 ～2022年８月29日	第37期 2022年８月30日 ～2022年11月28日
当期分配金（税込み）	**（円）**	**450**	**400**
対基準価額比率	（%）	3.75	3.38
当期の収益	（円）	105	282
当期の収益以外	（円）	344	117
翌期繰越分配対象額	（円）	1,661	1,543

（注１）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
（注２）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。
（注３）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■収益分配金の計算過程（１万口当り）

項　　目	第36期		第37期	
（ａ）経費控除後の配当等収益	✓	21. 58円	✓	20. 87円
（ｂ）経費控除後の有価証券売買等損益	✓	84. 36	✓	261. 35
（ｃ）収益調整金		621. 43		629. 57
（ｄ）分配準備積立金	✓	1, 384. 30	✓	1, 032. 11
（ｅ）当期分配対象額（ａ＋ｂ＋ｃ＋ｄ）		2, 111. 69		1, 943. 93
（ｆ）分配金		450. 00		400. 00
（ｇ）翌期繰越分配対象額（ｅ－ｆ）		1, 661. 69		1, 543. 93

（注）✓を付した該当項目から分配金を計上しています。

今後の運用方針

■当ファンド

今後も、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（米ドル・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資します。また、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（米ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（米ドル・クラス）

ボトムアップによる企業リサーチをもとに、財務内容が強固であり、経営陣が有能で、長期的にキャッシュフロー成長が見込まれる企業の中から、企業の本源的価値と比較して割安に放置されている銘柄に厳選投資していきます。引き続き、一時的な株価調整局面は企業の本源的価値に対して割安な水準で投資する機会と捉え、短期的な損益ではなく、長期投資のリターンを追求していきます。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

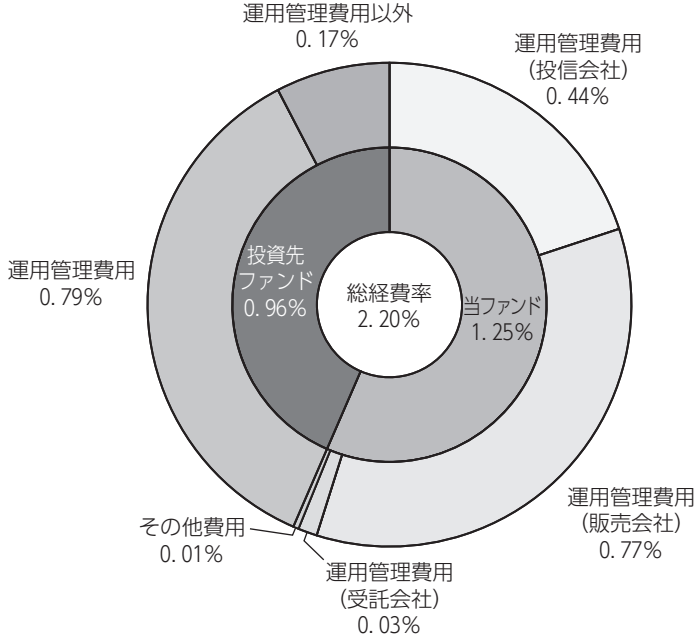
項　　目	第36期～第37期 (2022. 5. 31～2022. 11. 28)		項　目　の　概　要
	金　額	比　率	
信　託　報　酬	72円	0. 617%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 **当作成期中の平均基準価額は11, 618円です。**
(投 信 会 社)	(25)	(0. 219)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(45)	(0. 384)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0. 014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0. 004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合　　計	72	0. 621	

(注１) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。
(注２) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。
(注３) 各比率は１万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第３位未満を四捨五入してあります。
(注４) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「１万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.20%です。



総経費率　（　①　＋　②　＋　③　）	2.20%
①当ファンドの費用の比率	1.25%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.79%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.17%

（注１）投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。
（注２）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
（注３）投資先ファンドにおいて、上記以外に含まれていない費用は認識しておりません。
（注４）各比率は、年率換算した値です。
（注５）①の費用は、１万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
（注６）①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。
（注７）①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
（注８）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況
投資信託受益証券

（2022年５月31日から2022年11月28日まで）

決算期	第36期～第37期			
	買付		売付	
	口数	金額	口数	金額
	千口	千円	千口	千円
外国（邦貨建）	255.27177	68,574	1,550.52196	423,000

（注１）買付は、外国投資信託から支払われた分配金による再投資分を含みます。
（注２）金額は受渡し代金。
（注３）金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄
投資信託受益証券

（2022年５月31日から2022年11月28日まで）

第36期～第37期							
買付				売付			
銘柄	口数	金額	平均単価	銘柄	口数	金額	平均単価
	千口	千円	円		千口	千円	円
US CONCENTRATED CAYMAN USD CLASS（ケイマン諸島）	221.15603	59,000	266	US CONCENTRATED CAYMAN USD CLASS（ケイマン諸島）	1,550.52196	423,000	272

（注１）金額は受渡し代金。
（注２）金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表
(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	第37期末		
	口数	評価額	比率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 （ケイマン諸島） US CONCENTRATED CAYMAN USD CLASS	7,995.15842	2,224,860	98.2

（注１）比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。
（注２）評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種類	第35期末	第37期末	
	口数	口数	評価額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	1,999	1,999	1,999

（注）単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2022年11月28日現在

項目	第37期末	
	評価額	比率
	千円	%
投資信託受益証券	2,224,860	94.6
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	1,999	0.1
コール・ローン等、その他	126,149	5.3
投資信託財産総額	2,353,010	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

（2022年８月29日）、（2022年11月28日）現在

項　　目	第36期末	第37期末
（A）資産	**2, 534, 124, 003円**	**2, 353, 010, 270円**
コール・ローン等	135, 307, 940	126, 149, 590
投資信託受益証券（評価額）	2, 396, 815, 687	2, 224, 860, 704
ダイワ・マネーストック・マザーファンド（評価額）	2, 000, 376	1, 999, 976
（B）負債	**102, 425, 758**	**86, 691, 981**
未払収益分配金	94, 737, 468	79, 292, 035
未払解約金	12, 397	—
未払信託報酬	7, 625, 111	7, 300, 536
その他未払費用	50, 782	99, 410
（C）純資産総額（A－B）	**2, 431, 698, 245**	**2, 266, 318, 289**
元本	2, 105, 277, 081	1, 982, 300, 886
次期繰越損益金	326, 421, 164	284, 017, 403
（D）受益権総口数	**2, 105, 277, 081口**	**1, 982, 300, 886口**
1万口当り基準価額（C／D）	**11, 550円**	**11, 433円**

＊当作成期首における元本額は2, 136, 019, 805円、当作成期間（第36期～第37期）中における追加設定元本額は33, 688, 387円、同解約元本額は187, 407, 306円です。
＊第37期末の計算口数当りの純資産額は11, 433円です。

■損益の状況

第36期　自 2022年５月31日　至 2022年８月29日
第37期　自 2022年８月30日　至 2022年11月28日

項　　目	第36期	第37期
（A）配当等収益	**4, 886, 961円**	**4, 682, 602円**
受取配当金	4, 888, 305	4, 686, 223
受取利息	11	106
支払利息	△ 1, 355	△ 3, 727
（B）有価証券売買損益	**104, 341, 991**	**58, 614, 386**
売買益	106, 103, 979	63, 575, 254
売買損	△ 1, 761, 988	△ 4, 960, 868
（C）信託報酬等	**△ 7, 675, 893**	**△ 7, 349, 164**
（D）当期損益金（A＋B＋C）	**101, 553, 059**	**55, 947, 824**
（E）前期繰越損益金	**212, 187, 249**	**204, 596, 989**
（F）追加信託差損益金	**107, 418, 324**	**102, 764, 625**
（配当等相当額）	(130, 830, 055)	(124, 800, 714)
（売買損益相当額）	(△ 23, 411, 731)	(△ 22, 036, 089)
（G）合計（D＋E＋F）	**421, 158, 632**	**363, 309, 438**
（H）収益分配金	**△ 94, 737, 468**	**△ 79, 292, 035**
次期繰越損益金（G＋H）	**326, 421, 164**	**284, 017, 403**
追加信託差損益金	107, 418, 324	102, 764, 625
（配当等相当額）	(130, 830, 055)	(124, 800, 714)
（売買損益相当額）	(△ 23, 411, 731)	(△ 22, 036, 089)
分配準備積立金	219, 002, 840	181, 252, 778

（注１）信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。
（注２）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。
（注３）収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項　　目	第36期	第37期
（a）経費控除後の配当等収益	4, 543, 745円	4, 138, 503円
（b）経費控除後の有価証券売買等損益	17, 761, 770	51, 809, 321
（c）収益調整金	130, 830, 055	124, 800, 714
（d）分配準備積立金	291, 434, 793	204, 596, 989
（e）当期分配対象額（a＋b＋c＋d）	444, 570, 363	385, 345, 527
（f）分配金	94, 737, 468	79, 292, 035
（g）翌期繰越分配対象額（e－f）	349, 832, 895	306, 053, 492
（h）受益権総口数	2, 105, 277, 081口	1, 982, 300, 886口

収　益　分　配　金　の　お　知　ら　せ		
1万口当り分配金（税込み）	第36期	第37期
	450円	400円

●〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

通貨セレクト・コース

最近10期の運用実績

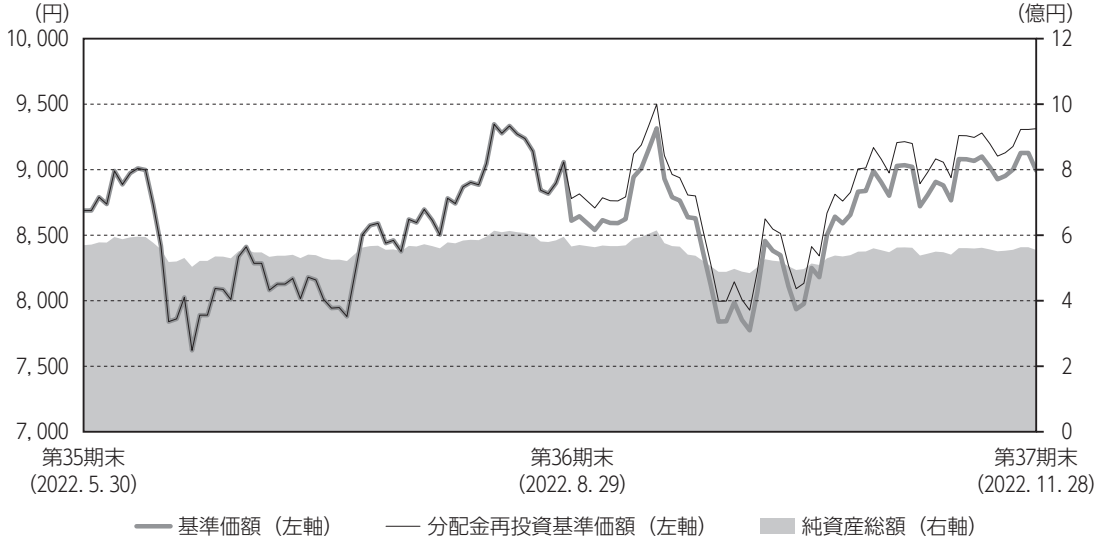
決算期	基準価額			S＆P500指数（米ドルベース）		公社債組入比率	投資信託受益証券組入比率	純資産総額
	（分配落）	税込み分配金	期中騰落率	（参考指数）	期中騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
28期末（2020年８月28日）	7,737	80	10.2	21,169	14.8	—	99.0	733
29期末（2020年11月30日）	8,575	120	12.4	22,103	4.4	—	99.0	672
30期末（2021年３月１日）	9,635	300	15.9	23,153	4.7	—	98.9	720
31期末（2021年５月28日）	10,880	350	16.6	25,521	10.2	—	99.0	752
32期末（2021年８月30日）	10,927	350	3.6	27,395	7.3	—	98.5	737
33期末（2021年11月29日）	9,553	180	△ 10.9	27,913	1.9	—	96.6	627
34期末（2022年２月28日）	9,421	170	0.4	26,637	△ 4.6	—	97.5	618
35期末（2022年５月30日）	8,688	100	△ 6.7	25,262	△ 5.2	—	99.0	569
36期末（2022年８月29日）	8,610	170	1.1	24,651	△ 2.4	—	98.9	565
37期末（2022年11月28日）	8,993	140	6.1	24,459	△ 0.8	—	98.9	554

（注１）基準価額の騰落率は分配金込み。
（注２）Ｓ＆Ｐ500指数（米ドルベース）は、同指数の原データをもとに、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。
（注３）海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。
（注４）指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。
（注５）公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。
（注６）公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

Ｓ＆Ｐ500指数はS&P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJI」）の商品であり、これの使用ライセンスが大和アセットマネジメント株式会社に付与されています。Ｓ＆Ｐ®、Ｓ＆Ｐ500®、US 500、The 500、iBoxx®、iTraxx®およびCDX®は、S&P Global, Inc.またはその関連会社（「Ｓ＆Ｐ」）の商標です。Dow Jones®は、Dow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標です。これらの商標の使用ライセンスはSPDJIに付与されており、大和アセットマネジメント株式会社により一定の目的でサブライセンスされています。通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド －イーグルアイⅡ－ 予想分配金提示型　通貨セレクト・コースは、SPDJI、Dow Jones、Ｓ＆Ｐ、またはそれらの各関連会社によって後援、推奨、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、Ｓ＆Ｐ500指数のいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。

運用経過

基準価額等の推移について



（注）分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

＊分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
＊分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■基準価額・騰落率

第36期首：8,688円
第37期末：8,993円（既払分配金310円）
騰　落　率：7.2%（分配金再投資ベース）

■基準価額の主な変動要因

保有株式は軟調に推移したものの、選定通貨（※）が対円で上昇（円安）したことなどから、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

※選定通貨とは、通貨の選定方針により、為替取引の対象通貨として選定された通貨をいいます。

	年　月　日	基準価額		S＆P500指数(米ドルベース)		公社債組入比率	投資信託受益証券組入比率
			騰落率	(参考指数)	騰落率		
		円	%		%	%	%
第36期	(期首)2022年5月30日	8,688	—	25,262	—	—	99.0
	5月末	8,688	0.0	25,262	0.0	—	98.8
	6月末	8,285	△ 4.6	23,200	△ 8.2	—	99.0
	7月末	8,596	△ 1.1	24,740	△ 2.1	—	99.0
	(期末)2022年8月29日	8,780	1.1	24,651	△ 2.4	—	98.9
第37期	(期首)2022年8月29日	8,610	—	24,651	—	—	98.9
	8月末	8,592	△ 0.2	24,216	△ 1.8	—	98.4
	9月末	7,853	△ 8.8	22,116	△ 10.3	—	99.4
	10月末	9,029	4.9	23,699	△ 3.9	—	99.0
	(期末)2022年11月28日	9,133	6.1	24,459	△ 0.8	—	98.9

（注）期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2022. 5. 31 ～ 2022. 11. 28）

■米国株式市況

米国株式市況は下落しました。

米国株式市況は、当作成期首より、ＣＰＩ（消費者物価指数）が大きく予想を上振れたことなどから利上げ織り込みが加速し、景気後退が懸念されて下落しました。しかし、2022年６月半ばにＦＲＢ（米国連邦準備制度理事会）が利上げ幅拡大を決定した後は、悪材料出尽くし観測やインフレ率のピークアウト期待などから、株価は８月中旬にかけて上昇しました。10月半ばにかけては、ＦＲＢ議長がインフレ抑制姿勢を強調したこと、予想以上のインフレ率の上昇や英国の財政悪化懸念などで欧米の金利が上昇したこと、企業業績の見通しの下方修正が相次いだことなどが嫌気され、下落しました。その後は、英国市場の混乱が収束して欧米の金利上昇が一服したことや米国のインフレ率が予想を下回ったことなどが好感され、当作成期末にかけて株価は反発しました。

■為替相場

選定通貨は対円でまちまちな動きとなりました。

日米金利差の拡大により円安が進行したことなどから、インド・ルピー、メキシコ・ペソ、ルーマニア・レイ、チェコ・コルナ、ハンガリー・フォリント、ポーランド・ズロチは対円で上昇しました。一方で、ブラジル・レアル、トルコ・リラ、コロンビア・ペソ、チリ・ペソは対円で下落（円高）しました。

■短期金利市況

選定通貨の短期金利は、高い経済成長率やインフレ率を背景に、米ドルの短期金利をおおむね上回って推移しました。

米国では、政策金利の誘導目標レンジが0. 75～1. 00％から3. 75～4. 00％に引き上げられました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

今後も、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（通貨セレクト・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資します。また、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（通貨セレクト・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

※ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（通貨セレクト・クラス）：ダイワ・プレミアム・トラスト－ ダイワ／ハリス ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（通貨セレクト・クラス）

■ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（通貨セレクト・クラス）

ボトムアップによる企業リサーチをもとに、財務内容が強固であり、経営陣が有能で、長期的にキャッシュフロー成長が見込まれる企業の中から、企業の本源的価値と比較して割安に放置されている銘柄に厳選投資していきます。引き続き、一時的な株価調整局面は企業の本源的価値に対して割安な水準で投資する機会と捉え、短期的な損益ではなく、長期投資のリターンを追求していきます。原則として、米ドル建ての資産に対して、米ドル売り／選定通貨買いの為替取引を行います。

大和アセットマネジメント株式会社が通貨の選定および配分比率について助言を行います。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

（2022. 5. 31 ～ 2022. 11. 28）

■当ファンド

当ファンドは、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（通貨セレクト・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（通貨セレクト・クラス）への投資割合は、信託財産の純資産総額の95％程度以上とすることをめざしました。

■ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（通貨セレクト・クラス）

ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（通貨セレクト・クラス）の受益証券においては、株式組入比率をおおむね90％以上の高位に維持しました。銘柄選択にあたって、ハリス・アソシエイツ・エル・ピーでは、独自に算出する投資対象企業の本源的価値と比較して著しく割安な銘柄に厳選投資することを基本方針としています。引き続き、財務内容が健全であり、経営陣の質が高く、

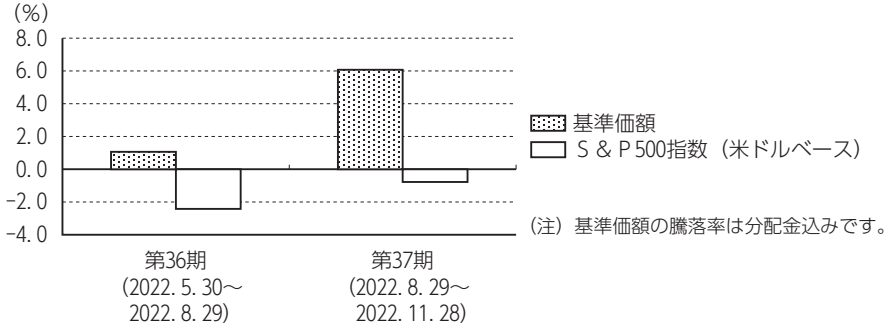
企業の本源的価値と比較して割安に放置されている企業に厳選投資しました。セクター別では、金融や一般消費財・サービスを高位で組み入れました。銘柄別では、ALPHABET（コミュニケーション・サービス）、WILLIS TOWERS WATSON（金融）、AMAZON. COM（一般消費財・サービス）などを高位で組み入れました。また、米ドル建ての資産に対して、米ドル売り／選定通貨買いの為替取引を行いました。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。
以下のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



（注）基準価額の騰落率は分配金込みです。

分配金について

当作成期の１万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（１万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。
収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（１万口当り）」をご参照ください。
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（１万口当り）

項　　目		第36期 2022年５月31日 ～2022年８月29日	第37期 2022年８月30日 ～2022年11月28日
当期分配金（税込み）	**（円）**	**170**	**140**
対基準価額比率	（％）	1.94	1.53
当期の収益	（円）	164	140
当期の収益以外	（円）	5	―
翌期繰越分配対象額	（円）	2,060	2,092

（注１）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
（注２）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。
（注３）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■収益分配金の計算過程（１万口当り）

項　　目	第36期		第37期	
（ａ）経費控除後の配当等収益	✓	164.57円	✓	172.00円
（ｂ）経費控除後の有価証券売買等損益		0.00		0.00
（ｃ）収益調整金		333.59		342.66
（ｄ）分配準備積立金	✓	1,732.68		1,718.19
（ｅ）当期分配対象額（ａ＋ｂ＋ｃ＋ｄ）		2,230.85		2,232.85
（ｆ）分配金		170.00		140.00
（ｇ）翌期繰越分配対象額（ｅ－ｆ）		2,060.85		2,092.85

（注）✓を付した該当項目から分配金を計上しています。

今後の運用方針

■当ファンド

今後も、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（通貨セレクト・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資します。また、ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（通貨セレクト・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■ＵＳ コンセントレイテッド・ケイマン（通貨セレクト・クラス）

ボトムアップによる企業リサーチをもとに、財務内容が強固であり、経営陣が有能で、長期的にキャッシュフロー成長が見込まれる企業の中から、企業の本源的価値と比較して割安に放置されている銘柄に厳選投資していきます。引き続き、一時的な株価調整局面は企業の本源的価値に対して割安な水準で投資する機会と捉え、短期的な損益ではなく、長期投資のリターンを追求していきます。原則として、米ドル建ての資産に対して、米ドル売り／選定通貨買いの為替取引を行います。

大和アセットマネジメント株式会社が通貨の選定および配分比率について助言を行います。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

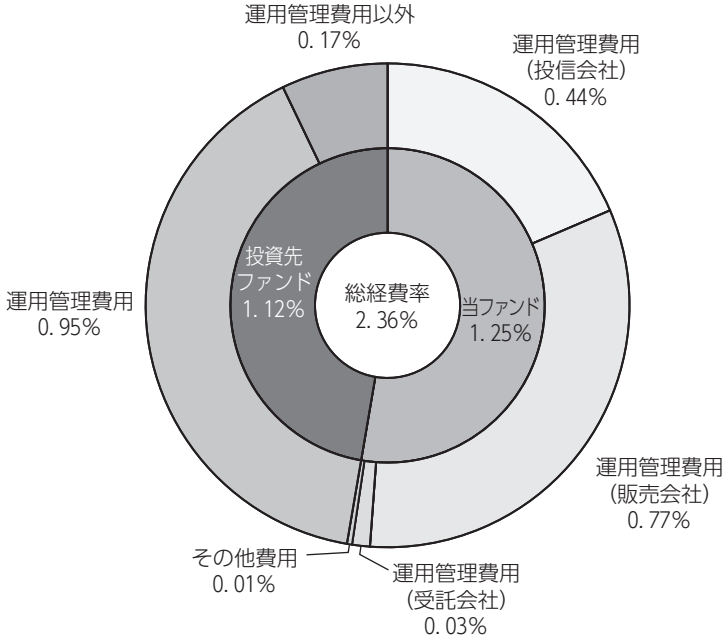
項　目	第36期～第37期 (2022. 5. 31～2022. 11. 28)		項　目　の　概　要
	金　額	比　率	
信託報酬	53円	0. 617%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 **当作成期中の平均基準価額は8, 587円です。**
(投信会社)	(19)	(0. 219)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販売会社)	(33)	(0. 384)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(1)	(0. 014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	0	0. 004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合　計	53	0. 621	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。
(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。
(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.36％です。



総経費率　（　①　＋　②　＋　③　）	2.36%
①当ファンドの費用の比率	1.25%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.95%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.17%

（注１）投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。
（注２）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
（注３）投資先ファンドにおいて、上記以外に含まれていない費用は認識しておりません。
（注４）各比率は、年率換算した値です。
（注５）①の費用は、１万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
（注６）①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。
（注７）①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
（注８）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況
投資信託受益証券

（2022年５月31日から2022年11月28日まで）

決　算　期	第　36　期　～　第　37　期			
	買　　付		売　　付	
	□　数	金　額	□　数	金　額
	千口	千円	千口	千円
外国（邦貨建）	346.67405	30,724	745.03919	65,800

（注１）買付は、外国投資信託から支払われた分配金による再投資分を含みます。
（注２）金額は受渡し代金。
（注３）金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄
投資信託受益証券

（2022年５月31日から2022年11月28日まで）

第　36　期　～　第　37　期							
買　　付				売　　付			
銘　　柄	□　数	金　額	平均単価	銘　　柄	□　数	金　額	平均単価
	千口	千円	円		千口	千円	円
US CONCENTRATED CAYMAN CS CLASS（ケイマン諸島）	81.07864	7,000	86	US CONCENTRATED CAYMAN CS CLASS（ケイマン諸島）	745.03919	65,800	88

（注１）金額は受渡し代金。
（注２）金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表
(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	第　37　期　末		
	□　数	評価額	比　率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 （ケイマン諸島） US CONCENTRATED CAYMAN CS CLASS	6,162.67639	548,786	98.9

（注１）比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。
（注２）評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種　　類	第35期末	第　37　期　末	
	□　数	□　数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	505	505	506

（注）単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2022年11月28日現在

項　　目	第　37　期　末	
	評　価　額	比　　率
	千円	%
投資信託受益証券	548,786	97.1
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	506	0.1
コール・ローン等、その他	16,024	2.8
投資信託財産総額	565,316	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

（2022年８月29日）、（2022年11月28日）現在

項　　目	第36期末	第37期末
（A）資産	**578, 326, 143円**	**565, 316, 937円**
コール・ローン等	18, 740, 245	16, 024, 503
投資信託受益証券（評価額）	559, 079, 695	548, 786, 332
ダイワ・マネーストック・マザーファンド（評価額）	506, 203	506, 102
（B）負債	**12, 907, 965**	**10, 342, 541**
未払収益分配金	11, 163, 421	8, 640, 000
未払信託報酬	1, 733, 038	1, 679, 883
その他未払費用	11, 506	22, 658
（C）純資産総額（A－B）	**565, 418, 178**	**554, 974, 396**
元本	656, 671, 872	617, 142, 869
次期繰越損益金	△ 91, 253, 694	△ 62, 168, 473
（D）受益権総口数	**656, 671, 872口**	**617, 142, 869口**
1万口当り基準価額（C／D）	**8, 610円**	**8, 993円**

＊当作成期首における元本額は655, 854, 099円、当作成期間（第36期～第37期）中における追加設定元本額は8, 656, 249円、同解約元本額は47, 367, 479円です。
＊第37期末の計算口数当りの純資産額は8, 993円です。
＊第37期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は62, 168, 473円です。

■損益の状況

第36期　自 2022年５月31日　至 2022年８月29日
第37期　自 2022年８月30日　至 2022年11月28日

項　　目	第36期	第37期
（A）配当等収益	**12, 551, 841円**	**11, 171, 938円**
受取配当金	12, 552, 107	11, 172, 667
受取利息	2	11
支払利息	△ 268	△ 740
（B）有価証券売買損益	**△ 4, 772, 742**	**22, 748, 596**
売買益	95, 101	24, 277, 618
売買損	△ 4, 867, 843	△ 1, 529, 022
（C）信託報酬等	**△ 1, 744, 544**	**△ 1, 691, 035**
（D）当期損益金（A＋B＋C）	**6, 034, 555**	**32, 229, 499**
（E）前期繰越損益金	**△ 78, 974, 842**	**△ 78, 626, 171**
（F）追加信託差損益金	**△ 7, 149, 986**	**△ 7, 131, 801**
（配当等相当額）	(21, 906, 111)	(21, 147, 142)
（売買損益相当額）	(△ 29, 056, 097)	(△ 28, 278, 943)
（G）合計（D＋E＋F）	**△ 80, 090, 273**	**△ 53, 528, 473**
（H）収益分配金	**△ 11, 163, 421**	**△ 8, 640, 000**
次期繰越損益金（G＋H）	**△ 91, 253, 694**	**△ 62, 168, 473**
追加信託差損益金	△ 7, 149, 986	△ 7, 131, 801
（配当等相当額）	(21, 906, 111)	(21, 147, 142)
（売買損益相当額）	(△ 29, 056, 097)	(△ 28, 278, 943)
分配準備積立金	113, 424, 292	108, 012, 013
繰越損益金	△ 197, 528, 000	△ 163, 048, 685

（注１）信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。
（注２）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。
（注３）収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項　　目	第36期	第37期
（a）経費控除後の配当等収益	10, 807, 278円	10, 614, 859円
（b）経費控除後の有価証券売買等損益	0	0
（c）収益調整金	21, 906, 111	21, 147, 142
（d）分配準備積立金	113, 780, 435	106, 037, 154
（e）当期分配対象額（a＋b＋c＋d）	146, 493, 824	137, 799, 155
（f）分配金	11, 163, 421	8, 640, 000
（g）翌期繰越分配対象額（e－f）	135, 330, 403	129, 159, 155
（h）受益権総口数	656, 671, 872口	617, 142, 869口

収　益　分　配　金　の　お　知　ら　せ		
1万口当り分配金（税込み）	第36期	第37期
	170円	140円

●〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

ＵＳ　コンセントレイテッド・ケイマン
日本円・クラス／豪ドル・クラス／ブラジル・レアル・クラス／
米ドル・クラス／通貨セレクト・クラス

当ファンド（通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド －イーグルアイⅡ－ 予想分配金提示型　日本円・コース／豪ドル・コース／ブラジル・レアル・コース／米ドル・コース／通貨セレクト・コース）はケイマン籍の外国投資信託「ダイワ・プレミアム・トラストーダイワ／ハリス　US　コンセントレイテッド・ケイマン　日本円・クラス／豪ドル・クラス／ブラジル・レアル・クラス／米ドル・クラス／通貨セレクト・クラス」の受益証券（円建）を主要投資対象としております。以下の内容は、直近で入手可能な Financial Statements 等から抜粋し、編集および一部翻訳したものです。

（米ドル建て）

貸借対照表
2022年５月31日

資産		
投資資産の評価額（簿価 $26, 511, 933）	$	28, 348, 809
現金		279
外国為替先渡取引による評価益		358, 297
未収：		
売却済みの投資		98, 686
受益証券の発行		404, 213
配当		15, 908
資産合計		29, 226, 192
負債		
外国為替先渡取引による評価損		66, 597
カウンターパーティへの預託金（外国為替先渡取引用）		260, 000
未払：		
購入済みの投資		932, 605
専門家報酬		85, 500
運用会社報酬		13, 554
会計および管理会社報酬		3, 206
保管会社報酬		2, 767
名義書換代理人報酬		995
為替運用会社報酬		648
為替取引執行会社報酬		152
負債合計		1, 366, 024
純資産	$	27, 860, 168
豪ドル・クラス	$	799, 091
ブラジル・レアル・クラス		1, 447, 074
通貨セレクト・クラス		4, 469, 851
日本円・クラス		1, 874, 812
米ドル・クラス		19, 269, 340
	$	27, 860, 168

発行済み受益証券口数		
豪ドル・クラス		569, 107
ブラジル・レアル・クラス		1, 796, 563
通貨セレクト・クラス		6, 607, 002
日本円・クラス		1, 243, 445
米ドル・クラス		9, 427, 318
受益証券１口当り純資産額		
豪ドル・クラス	$	1. 404
ブラジル・レアル・クラス	$	0. 805
通貨セレクト・クラス	$	0. 677
日本円・クラス	$	1. 508
米ドル・クラス	$	2. 044

損益計算書

2022年５月31日に終了した年度

投資収益		
配当収益（源泉税 $86, 829控除後）	$	203, 355
受取利息		506
投資収益合計		203, 861
費用		
運用会社報酬		206, 699
専門家報酬		53, 249
会計および管理会社報酬		45, 001
保管会社報酬		19, 720
為替運用会社報酬		10, 269
受託会社報酬		8, 605
名義書換代理人報酬		7, 071
登録料		1, 879
為替取引執行会社報酬		1, 096
費用合計		353, 589
投資損失		(149, 728)
実現損益および評価損益：		
実現損益：		
証券投資		5, 981, 379
外国為替取引および外国為替先渡取引		(1, 302, 972)
実現利益		4, 678, 407
評価損益の変動：		
証券投資		(10, 385, 164)
外国為替換算および外国為替先渡取引		309, 270
評価損益の変動		(10, 075, 894)
実現損益および評価損益の変動		(5, 397, 487)
運用による純資産の減少	$	(5, 547, 215)

（米ドル建て）

投資明細表

2022年５月31日

株数	証券の明細	対純資産比	評価額
	普通株（97.2%）		
	英国（6.7%）		
	ヘルスケア製品（2.5%）		
10,394	LivaNova PLC		$ 707,520
	保険（4.2%）		
5,490	Willis Towers Watson PLC		1,158,774
	英国合計（簿価 $1,956,684）		1,866,294
	米国（90.5%）		
	自動車部品（3.2%）		
6,375	Lear Corp.		898,620
	銀行（5.6%）		
22,130	Bank of America Corp.		823,236
13,670	Citigroup, Inc.		730,115
			1,553,351
	飲料（5.0%）		
40,060	Keurig Dr Pepper, Inc.		1,391,684
	商業サービス（3.3%）		
10,205	ManpowerGroup, Inc.		914,470
	総合金融サービス（12.2%）		
1,410	BlackRock, Inc. Class A		943,403
18,180	Charles Schwab Corp.		1,274,418
1,705	Mastercard, Inc. Class A		610,168
2,750	Visa, Inc. Class A		583,468
			3,411,457
	ヘルスケアサービス（4.5%）		
5,967	HCA Healthcare, Inc.		1,255,457
	保険（4.4%）		
21,025	American International Group, Inc.		1,233,747
	インターネット（22.7%）		
903	Alphabet, Inc. Class A		2,054,542
711	Amazon.com, Inc.		1,709,379
543	Booking Holdings, Inc.		1,218,253
4,270	Facebook, Inc. Class A		826,843
2,560	Netflix, Inc.		505,446
			6,314,463
	宿泊施設（2.2%）		
4,339	Hilton Worldwide Holdings, Inc.		611,192
	メディア（6.3%）		
3,483	Charter Communications, Inc. Class A		1,765,637
	石油・ガスサービス（0.9%）		
13,025	NOV, Inc.		260,500
	未公開株（2.9%）		
14,632	KKR & Co., Inc. Class Miscella		801,980
	不動産（4.5%）		
15,080	CBRE Group, Inc. Class A		1,249,227

	株数	証券の明細	対純資産比	評価額
		小売（3.8%）		
	56,295	Wendy's Co.		1,049,339
		ソフトウェア（9.0%）		
	24,940	Fiserv, Inc.		2,498,489
		米国合計（簿価 $23,282,347）		25,209,613
		普通株合計（簿価 $25,239,031）		**$ 27,075,907**
	元本	**短期運用（4.6%）**		
		英国（4.6%）		
		定期預金 （4.6%）		
		Barclays Bank		
USD	1,272,902	0.40% due 06/01/22		$ 1,272,902
				1,272,902
		英国合計（簿価 $1,272,902）		1,272,902
		短期運用合計（簿価 $1,272,902）		**1,272,902**
		投資総額（簿価 $26,511,933）	**101.8%**	**$ 28,348,809**
		現金およびその他の資産を超過する負債	**(1.8)**	**(488,641)**
		純資産	**100.0%**	**$ 27,860,168**

投資明細表のすべての有価証券は運用会社の最良の判断に基づいて有価証券の所在地ではなく、リスクの所在国によって分類されています。

2022年5月31日現在の豪ドル・クラスの外国為替先渡取引

買い	取引相手	契約金額	決済日	売り	契約金額	評価益	評価（損）	評価益／（損）
AUD	Citibank NA	1,262,091	06/14/2022	USD	864,210	$ 41,315	$ –	$ 41,315
USD	Citibank NA	128,683	06/14/2022	AUD	188,060	–	(6,247)	(6,247)
						$ 41,315	$ (6,247)	$ 35,068

2022年5月31日現在のブラジル・レアル・クラスの外国為替先渡取引

買い	取引相手	契約金額	決済日	売り	契約金額	評価益	評価（損）	評価益／（損）
BRL	Citibank NA	7,038,792	06/14/2022	USD	1,347,579	$ 132,574	$ –	$ 132,574
BRL	Citibank NA	509,359	06/14/2022	USD	107,124	–	(13)	(13)
USD	Citibank NA	140,615	06/14/2022	BRL	683,209	–	(3,055)	(3,055)
						$ 132,574	$ (3,068)	$ 129,506

2022年5月31日現在の通貨セレクト・クラスの外国為替先渡取引

買い	取引相手	契約金額	決済日	売り	契約金額	評価益	評価（損）	評価益／（損）
BRL	Citibank NA	3,222,915	06/14/2022	USD	617,028	$ 60,702	$ –	$ 60,702
CLP	Citibank NA	480,946,983	06/14/2022	USD	551,152	31,855	–	31,855
COP	Citibank NA	2,149,335,162	06/14/2022	USD	520,534	47,752	–	47,752
MXN	Citibank NA	13,356,980	06/14/2022	USD	651,166	24,755	–	24,755
RON	Citibank NA	2,786,110	06/14/2022	USD	583,536	19,021	–	19,021
TRY	Citibank NA	20,537,397	06/14/2022	USD	1,275,357	–	(40,857)	(40,857)
						$ 184,085	$ (40,857)	$ 143,228

2022年５月31日現在の日本円・クラスの外国為替先渡取引

買い	取引相手	契約金額	決済日	売り	契約金額	評価益	評価（損）	評価益／（損）
ＪＰＹ	Citibank NA	240, 518, 954	06/14/2022	ＵＳＤ	1, 886, 871	$ –	$ (16, 425)	$ (16, 425)
ＪＰＹ	Citibank NA	13, 068, 523	06/14/2022	ＵＳＤ	101, 602	28	–	28
ＵＳＤ	Citibank NA	95, 280	06/14/2022	ＪＰＹ	12, 213, 963	295	–	295
						$ 323	$ (16, 425)	$ (16, 102)

通貨の略称

ＡＵＤ	-	豪ドル
ＢＲＬ	-	ブラジル・レアル
ＣＬＰ	-	チリ・ペソ
ＣＯＰ	-	コロンビア・ペソ
ＪＰＹ	-	日本・円
ＭＸＮ	-	メキシコ・ペソ
ＲＯＮ	-	ルーマニア・レイ
ＴＲＹ	-	トルコ・リラ
ＵＳＤ	-	米ドル

＜補足情報＞

当ファンド（通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド －イーグルアイⅡ－ 予想分配金提示型）が投資対象としている「ダイワ・マネーストック・マザーファンド」の決算日（2021年12月９日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの第37期の決算日（2022年11月28日）現在におけるダイワ・マネーストック・マザーファンドの組入資産の内容等を掲載いたしました。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンドの主要な売買銘柄

2022年５月31日～2022年11月28日における主要な売買銘柄はありません。

■組入資産明細表

2022年11月28日現在、有価証券等の組み入れはありません。

ダイワ・マネーストック・マザーファンド

運用報告書　第12期（決算日　2021年12月９日）

（作成対象期間　2020年12月10日～2021年12月９日）

ダイワ・マネーストック・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

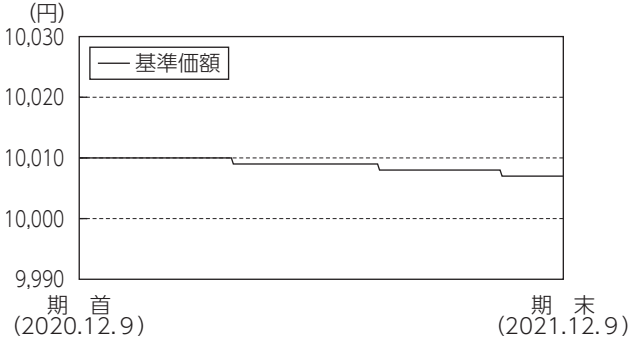
★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運　用　方　針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
株式組入制限	純資産総額の10％以下

大和アセットマネジメント
Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目９番１号
https://www.daiwa-am.co.jp/

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年　月　日	基準価額		公社債組入比率
		騰落率	
	円	%	%
(期首)2020年12月9日	10,010	－	－
12月末	10,010	0.0	－
2021年1月末	10,010	0.0	－
2月末	10,010	0.0	－
3月末	10,010	0.0	－
4月末	10,009	△0.0	－
5月末	10,009	△0.0	－
6月末	10,009	△0.0	－
7月末	10,008	△0.0	－
8月末	10,008	△0.0	－
9月末	10,008	△0.0	－
10月末	10,007	△0.0	－
11月末	10,007	△0.0	－
(期末)2021年12月9日	10,007	△0.0	－

(注1) 騰落率は期首比。
(注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。
(注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,010円　期末：10,007円　騰落率：△0.0%

【基準価額の主な変動要因】

コール・ローン等の利回りがマイナス圏で推移したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市況

当作成期を通じて、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和を維持しました。この金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

◆ポートフォリオについて

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

■1万口当りの費用の明細

項　目	当　期
売買委託手数料	－円
有価証券取引税	－
その他費用	0
(その他)	(0)
合　計	0

(注1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。
(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

当作成期中における売買および取引はありません。

■主要な売買銘柄

当作成期中における主要な売買銘柄はありません。

■組入資産明細表

当作成期末における有価証券等の組み入れはありません。

■投資信託財産の構成

2021年12月9日現在

項　目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
コール・ローン等、その他	147,987,988	100.0
投資信託財産総額	147,987,988	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2021年12月９日現在

項　　目	当　期　末
(A) 資産	**147,987,988,484円**
コール・ローン等	147,987,988,484
(B) 負債	**210,000,000**
未払解約金	210,000,000
(C) 純資産総額(A－B)	**147,777,988,484**
元本	147,676,216,454
次期繰越損益金	101,772,030
(D) 受益権総口数	**147,676,216,454口**
１万口当り基準価額(C／D)	**10,007円**

＊期首における元本額は88,319,921,795円、当作成期間中における追加設定元本額は176,557,677,368円、同解約元本額は117,201,382,709円です。

＊当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：

日本株ロング・ショート戦略パイロットファンド（適格機関投資家専用）	266,761,115円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド　－ロボテック－	947,268円
ダイワ／ミレーアセット・インド株式ファンド　－インドの匠－	29,910,270円
ワールド・フィンテック革命ファンド（為替ヘッジあり）	998円
ワールド・フィンテック革命ファンド（為替ヘッジなし）	998円
ＵＳ短期ハイ・イールド社債ファンド（為替ヘッジあり／毎月決算型）	102,434円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド　－ロボテック－（為替ヘッジあり）	39,849円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド（年１回決算型）－ロボテック（年１回）－（為替ヘッジあり）	3,985円
ｉＦｒｅｅレバレッジ　Ｓ＆Ｐ500	8,293,797,395円
ｉＦｒｅｅレバレッジ　ＮＡＳＤＡＱ100	70,959,132,903円
クリーンテック株式ファンド（資産成長型）	998,802円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド　－ロボテック－（毎月決算／予想分配金提示型）	999円
世界インフラ戦略ファンド（為替ヘッジなし／毎月分配型）	1,000円
世界インフラ戦略ファンド（為替ヘッジなし／資産成長型）	499,501円
ダイワ上場投信－日経平均レバレッジ・インデックス	5,345,339,466円
ダイワ上場投信－日経平均ダブルインバース・インデックス	6,483,785,045円
ダイワ上場投信－ＴＯＰＩＸレバレッジ（２倍）指数	1,334,794,630円
ダイワ上場投信－ＴＯＰＩＸダブルインバース（－２倍）指数	936,360,631円
ダイワ上場投信－日経平均インバース・インデックス	6,676,062,567円
ダイワ上場投信－ＴＯＰＩＸインバース（－１倍）指数	3,084,973,807円
ダイワ上場投信－ＪＰＸ日経400レバレッジ・インデックス	574,295,634円
ダイワ上場投信－ＪＰＸ日経400インバース・インデックス	861,497,868円
ダイワ上場投信－ＪＰＸ日経400ダブルインバース・インデックス	104,920,073円
ダイワ米国投資法人債ファンド（為替ヘッジあり）2016－07	997円
ダイワ米国投資法人債ファンド（為替ヘッジあり）2016－10	997円
先進国トータルリターン戦略ファンド（リスク抑制型／適格機関投資家専用）	6,988,339,549円
ダイワ日本株式ベア・ファンド（適格機関投資家専用）	101,154,451円
ダイワ日本国債15－20年ラダー型ファンド・マネーポートフォリオ　－ＳＬトレード－	301,448,680円
ブルベア・マネー・ポートフォリオ６	16,464,882,107円
ブル３倍日本株ポートフォリオ６	17,685,532,691円
ベア２倍日本株ポートフォリオ６	1,058,922,067円
ダイワ／ハリス世界厳選株ファンド・マネー・ポートフォリオ	89,553,240円
ダイワ・アセアン内需関連株ファンド・マネー・ポートフォリオ	2,938,475円
通貨選択型ダイワ／ミレーアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドⅡ　豪ドル・コース（毎月分配型）	595,106円
通貨選択型ダイワ／ミレーアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドⅡ　ブラジル・レアル・コース（毎月分配型）	987,373円
通貨選択型ダイワ／ミレーアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドⅡ　通貨セレクト・コース（毎月分配型）	494,581円
ダイワＵＳ短期ハイ・イールド社債ファンド（為替ヘッジあり／年１回決算型）	9,957円
ダイワ米国バンクローン・オープン（為替ヘッジあり）	997円
ダイワ米国バンクローン・オープン（為替ヘッジなし）	997円
ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド（為替ヘッジあり）	997円
ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド（為替ヘッジなし）	997円
ダイワ／ミレーアセット亜細亜株式ファンド	9,958,176円
通貨選択型ダイワ／ミレーアセット・グローバル好配当株α（毎月分配型）米ドル・コース	10,833円
通貨選択型ダイワ／ミレーアセット・グローバル好配当株α（毎月分配型）ブラジル・レアル・コース	10,788円
通貨選択型ダイワ／ミレーアセット・グローバル好配当株α（毎月分配型）通貨セレクト・コース	12,751円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド（年１回決算型）　－ロボテック（年１回）－	100,588円
ダイワ先進国リートα　為替ヘッジあり（毎月分配型）	399,083円
ダイワ先進国リートα　為替ヘッジなし（毎月分配型）	99,771円
通貨選択型ダイワ先進国リートα　円ヘッジコース（毎月分配型）	399,083円
通貨選択型ダイワ先進国リートα　通貨セレクトコース（毎月分配型）	99,771円
ダイワ／ミレーアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンド（為替ヘッジあり）	1,091,429円
ダイワ／ミレーアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンド（為替ヘッジなし）	315,004円
ダイワ／ミレーアセット・アジア・セクターリーダー株ファンド	10,009,811円
ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）　－ジャパン・トリプルリターンズ－　日本円・コース（毎月分配型）	398,764円
ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）　－ジャパン・トリプルリターンズ－　豪ドル・コース（毎月分配型）	99,691円
ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）　－ジャパン・トリプルリターンズ－　ブラジル・レアル・コース（毎月分配型）	398,764円
ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）　－ジャパン・トリプルリターンズ－　米ドル・コース（毎月分配型）	398,764円
ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）　－ジャパン・トリプルリターンズ－　通貨セレクト・コース（毎月分配型）	15,402円
通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド　－イーグルアイⅡ－　予想分配金提示型　日本円・コース	300,273円
通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド　－イーグルアイⅡ－　予想分配金提示型　豪ドル・コース	200,861円
通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド　－イーグルアイⅡ－　予想分配金提示型　ブラジル・レアル・コース	300,273円
通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド　－イーグルアイⅡ－　予想分配金提示型　米ドル・コース	1,999,177円
通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド　－イーグルアイⅡ－　予想分配金提示型　通貨セレクト・コース	505,900円

＊当期末の計算口数当りの純資産額は10,007円です。

■損益の状況

当期　自2020年12月10日　至2021年12月９日

項　　目	当　　期
(A) 配当等収益	**△ 31,130,963円**
受取利息	469,134
支払利息	△ 31,600,097
(B) その他費用	**△ 147,839**
(C) 当期損益金(A＋B)	**△ 31,278,802**
(D) 前期繰越損益金	**90,693,506**
(E) 解約差損益金	**△106,126,697**
(F) 追加信託差損益金	**148,484,023**
(G) 合計(C＋D＋E＋F)	**101,772,030**
次期繰越損益金(G)	**101,772,030**

（注１）解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

（注２）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。